東金市立幼稚園・保育所・認定こども園 共通カリキュラム

東　金　市

令和４年３月改定

＜目　次＞

１．はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

２．共通カリキュラムの基本理念等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

３．共通カリキュラムの実践　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

４．共通カリキュラム

（１）教育及び保育の内容に関する全体的な計画　・・・・・・・・・5

（２）０歳児　年間カリキュラム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

（３）１歳児　年間カリキュラム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

（４）２歳児　年間カリキュラム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

（５）３歳児　年間カリキュラム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

（６）４歳児　年間カリキュラム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

（７）５歳児　年間カリキュラム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・49

（８）アプローチカリキュラム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58

５．（平成 27・28 年度）カリキュラム策定会議委員名簿　・・・・・60

６．（平成 29 年度）カリキュラム見直し検討会議委員名簿　・・・・61

７．（平成 30 年度）カリキュラム事例検討会議委員名簿　・・・・・62

８．（令和３年度）カリキュラム策定会議委員名簿
アプローチカリキュラム検討　・・・・63

１．はじめに

東金市では将来の幼保一体化を見据え、就学前の子どもが市立幼稚園・保育所・認定こども園（以下「教育・保育施設」という。）のどの施設に通っていても、同じ内容の教育・保育を受け、小学校へのスムーズな接続が図れるよう、これまで培ってきたそれぞれのノウハウを十分に生かした「東金市立幼稚園・保育所・認定こども園共通カリキュラム（以下「共通カリキュラム」という。）」を教育・保育施設の職員をメンバーとしたカリキュラム策定会議により策定しました。

カリキュラム策定会議では、教育・保育施設の施設長で構成する会議で決定した「基本理念」「教育・保育目標」「方針」「めざす子ども像」に基づき、０歳児から５歳児までの子どもの発達過程を見通して、めざすべき保育のねらいと内容を順序だてて編成した共通カリキュラムを策定し、教育・保育施設で実施する乳幼児期の教育・保育の基本となるものとしました。

この共通カリキュラムを基本に、それぞれの教育・保育施設において地域性を踏まえた教育・保育が展開され、本市の未来を担う子どもたちの学びと育ちがより充実していくことをめざしていきます。

最後になりましたが、本カリキュラムの作成に当たり、ご尽力いただきました皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

市民福祉部こども課長
教育部学校教育課長

共通カリキュラムは平成２９年３月の策定後、平成３１年３月には事例集を追加する改定を、令和４年３月には幼児教育と小学校教育の接続に特化した「アプローチカリキュラム」を追加する改定を行いました。今後とも、子どものより主体的な学びに繋がるよう見直しをはかりながら運用していきます。

2. 共通カリキュラムの基本理念等

乳幼児期は、健全な心身の発達を図り、人格形成の基礎を培うとても大切な時期です。乳幼児期に、安心できる人と「基本的な信頼関係」を築き、生活や遊びの中で、自発的、主体的に、環境と関わりながら、「心情・意欲・態度」を身に付けていくことが、未来を生きる力を育んでいく基盤となります。

そのために、就学前の子どもたちを預かる施設では家庭や地域との連携を深め、子どもたちが周りの人や環境に安心感と信頼感を持ちながら、自らが身をもって行う活動を積み重ね、一人一人のよさと可能性を伸ばしていく教育・保育を一体的に展開していくことが大切であると考えます。

東金市の未来を担う子どもたちが、今も未来も希望と自信を持って、心身ともにたくましく未来を生きる力を育んでいくことを目指し、基本理念、教育・保育目標、方針、めざす子ども像を以下のとおりとします。

（１）基本理念

乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。

（２）教育・保育目標

「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む

（３）方針

○「生活」と「遊び」を通した学びにより様々な体験を重ね、豊かな感性や創造性、好奇心を育てます。

○子どもたち一人一人の個性を大切にし、そのよさをさらに高め、子どもたちが自分を伸びやかに発揮できるように努めます。

○同年齢、異年齢の友達とのかかわりの中で、お互いを大切に思いやる心を育てます。

○子どもたちが健康で安全に生活できる環境を整え、丈夫な体づくりのための食育の推進や基本的な生活習慣・態度を身に付けられるよう支援します。

○子どもたちが健やかに成長していけるよう、家庭や地域との連携を密にし、共通理解を図ります。

○地域における子育て支援のために、乳幼児の教育・保育に関する相談に応じ、助言するなどの社会的役割を果たします。

○一人一人の特別なニーズに応じた適切な支援を行うとともに、集団活動を通して、全体的な発達を促します。

○学校教育への円滑な接続のための基礎を培います。

（４）めざす子ども像

❀仲良く元気に遊べる子･･･身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。

❀思いやりのあるやさしい子･･･思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。

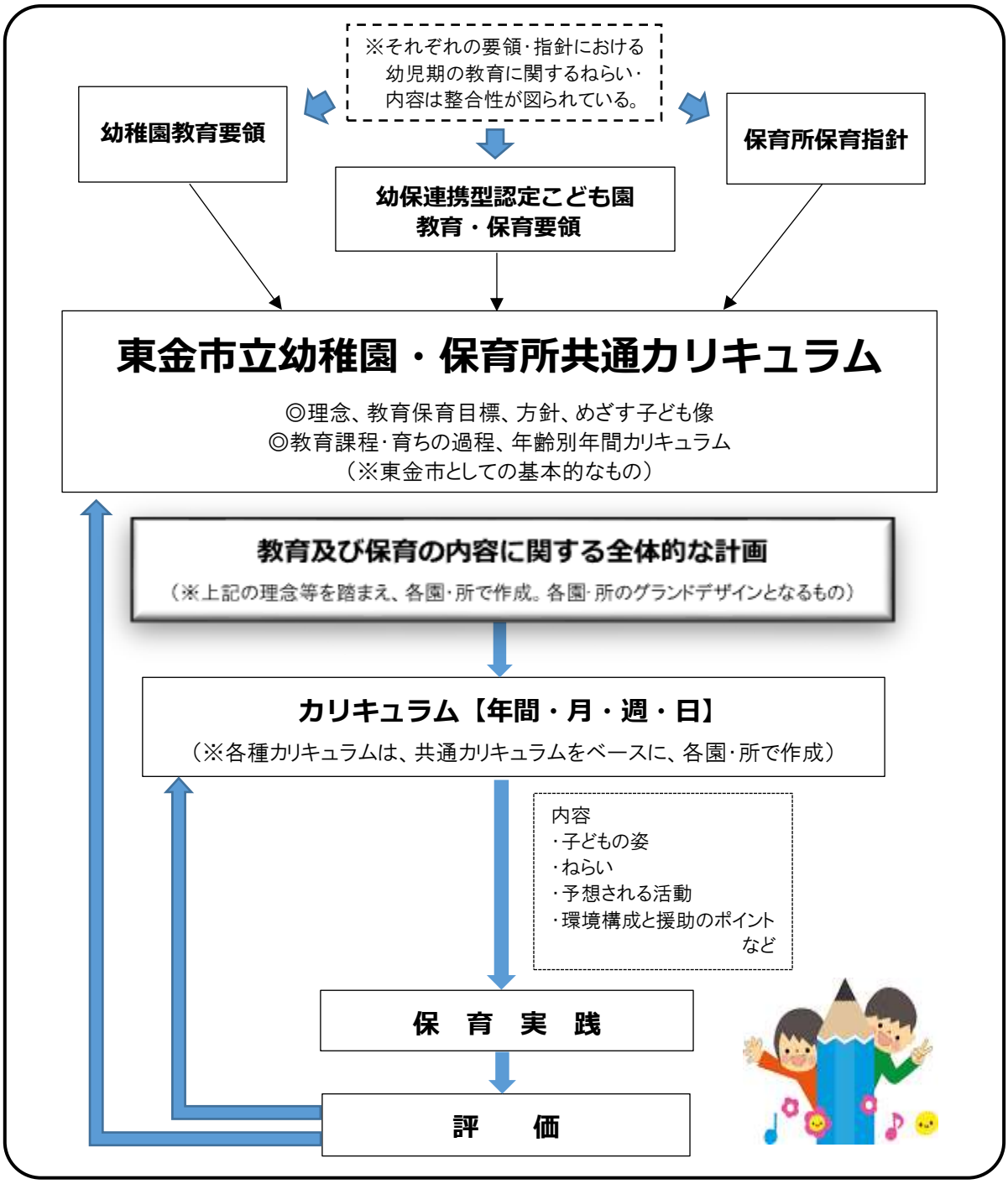
❀自分で考えて行動する子･･･なぜ、どうしてという気持ちをもち、試し、やってみる。

❀あきらめないで挑戦する子･･･見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。

３．共通カリキュラムの実践

「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」は、幼稚園・保育所の教育・保育の基本と内容を示したものです。また、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」は、幼保一体化施設である認定こども園の教育課程と教育・保育内容を示したものです。これらの要領・指針をもとに、カリキュラム策定会議において共通カリキュラムを作成しました。

各園・所では共通カリキュラムを基本としながら、教育及び保育の内容に関する全体的な計画以下の計画については、各園・所の状況に応じて作成し、それに基づいて教育・保育を実践・評価して次の計画に反映させ改善を図ります。



４．共通カリキュラム

（1）教育及び保育の内容に関する全体的な計画

東金市では、教育・保育施設において、「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示すところに従い教育･保育を提供するため、創意工夫を生かし、子どもたちの心身の発達と教育・保育施設、家庭及び地域の実態に即応した適切な教育及び保育の内容に関する全体的な計画を作成します。

全体的な計画は、各園・所を運営していく上でのグランドデザインとなるものであり、東金市共通の基本理念等を念頭に置きながら、それぞれの園･所の独自性や地域性を十分に考慮して、子どもたちの充実した生活を展開できるよう、各園･所長の責任の下で作成し、カリキュラムを立案する際の骨格となるものとします。

東金市立〇〇幼稚園・保育所・認定こども園　　〇〇年度　教育及び保育の内容に関する全体的な計画　（編集作成：園・所長　〇〇　〇〇）　　〇〇年４月１日現在

基本理念	乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育･保育の環境を創造する。
教育･保育目標	「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む
めざす子ども像	〇仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 〇思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 〇自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちをもち、試し、やってみる。 〇あきらめないで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。
〇〇園の教育・保育目標	

子どもの教育及び保育目標	
０歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
１歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
２歳児（満３歳児）	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
３歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
４歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
５歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。

●幼稚園：基本保育時間→9：00～14：00　　＊預かり保育　14:00～16：30
●保育所：基本保育時間→7：30（8：00）～18：30（16:00）　　＊延長保育時間→7:00～、～19:00
●認定こども園：基本保育時間→幼稚園的利用は幼稚園と、保育所的利用は保育所と同じ。
＊2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。

行事のねらい

日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。
①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　　②親子の触れ合いを促す役割
③伝統文化を知らせる役割　　④健康と安全を守る役割　　⑤保育を厚くする役割

特に配慮すべき事項

一人一人を大切にする教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢との関わりを大切にする教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育

教育課程・育ちの過程

	年齢	０歳児	１歳児	２歳児（満３歳児）	３歳児	４歳児	５歳児
養護	生命の保持	〇安全で清潔な環境を整える。 〇生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 〇気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 〇スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 〇信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 〇ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。 〇喃語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。 〇自分でやりたいという気持ちを大切にし、援助しながら満足感を感じられるようにする。 〇信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。	〇安全で清潔な環境を整える。 〇運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分把握し環境の安全に配慮する。 〇一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 〇不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 〇子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 〇保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 〇自分でやりたいという気持ちを大切にし、意欲的に生活できるようにする。 〇自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	〇一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 〇基本的生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 〇一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 〇一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 〇様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧に受け止め、見守っていく。 〇保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	〇基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 〇できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。	〇運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 〇一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。	〇体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 〇一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。
	情緒の安定				〇体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 〇保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 〇気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 〇異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。 〇身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 〇いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 〇活動を通して、遊びの中のいろいろなきまりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 〇感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	〇全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 〇危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 〇気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 〇身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 〇いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 〇保育者や気の合う友達の話を興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 〇友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	〇友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 〇危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 〇生活や遊びに見通しをもって活動する。 〇友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 〇身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 〇自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。 〇友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。
教育及び保育	健やかに伸び伸びと育つ	〇初歩的な運動機能が発達する。 〇食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。	健康：〇運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 〇簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。	〇十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。 〇簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 〇自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。			
	身近な人と気持ちが通じ合う	〇身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 〇保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。 〇保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	人間関係：〇保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。 環境：〇身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。 言葉：〇話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。	〇身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。 〇保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。			
	身近なものと関わり感性が育つ	〇身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。	表現：〇保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。	〇保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。			

家庭との連携

小学校への円滑な接続に向けた教育・保育

地域との連携を大切にする教育・保育

保護者及び地域の子育て家庭への支援

研修・研究計画

研究テーマ	

園の自己評価

評価方法	

（2）０歳児
年間カリキュラム

≪子どもの教育及び保育目標≫

一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。

０歳児は入園の時期が異なり、月齢の違いによる発達差が大きく、子どもの個人差に十分配慮していく必要があるため、月齢で捉え、一人一人の発達に応じて対応していきます。

0歳児 年間カリキュラム

教育・保育目標

一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。

	Ⅰ期（4月～5月）	Ⅱ期（6月～8月）	Ⅲ期（9月～12月）	Ⅳ期（1月～3月）
期のねらい	○新しい環境に慣れ、保育者との関わりを持ち、安心して過ごせるようになる。	○保育者の見守りの中で、いろいろな物に興味を持ち、楽しく過ごす。	○安心できる環境の下で、保育者とのやり取りや体を動かした遊びを楽しむ。	○安定した環境の中で、いろいろな人や物に触れながら好きな遊びを楽しむ。
行事	⑤入園式　③端午の節句　⑤誕生会　④内科健診　④歯科健診	①②保育参加　①⑤給食参観　④引き渡し訓練　③七夕 ②夕涼み会　⑤誕生会	⑤遠足　①運動会　⑤いもほり　③お月見　④内科健診 ④歯科健診　⑤クリスマス会　③餅つき会　⑤誕生会	⑤誕生会　③節分　③ひな祭り　①発表会　⑤お別れ会

月齢　7か月　8か月　9か月　10か月　11か月　1歳　1歳1か月　1歳2か月　1歳3か月　1歳4か月　1歳5か月　1歳6か月　1歳7か月　1歳8か月　1歳9か月　1歳10か月　1歳11か月

養護

生命の保持

○安全で清潔な環境を整える。　○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。
○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。　○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。　○自分でやりたいという気持ちを大切にし、援助しながら満足感を感じられるようにする。

情緒の安定

○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。　○喃語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。　○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。

食育

○成長段階に応じて適切に離乳をすすめ、様々な食品に慣れさせながら未満児食への移行を図る。　○いろいろな経験を通して食に対する興味や好奇心の芽生えを育む。

教育及び保育（予想される姿や活動）

健やかに伸び伸びと育つ・身近な人と気持ちが通じ合う・身近なものと関わり感性が育つ

○いろいろな味に慣れる。○手づかみで食べようとする。　○手づかみで食べたり、スプーンを使って食べようとしたりする。　○両手でコップを持って、こぼしながらも飲もうとする。　○こぼしながらもスプーン･フォークを使って食べようとする。　○こぼしながらも自分で食べたりコップで飲んだりする。
○保育者に手を添えてもらうと、コップやお椀から飲めるようになる。
○安心しておむつを替えてもらい、きれいになった気持ちよさを感じる。　○おむつ交換の場所が分かり、自分からお尻をあげたり、嫌がって体の向きを変えようとしたりする。　○おむつが濡れていないときは、オマルや便器に座ってみる。　○保育者に声掛けされ、便器に座り、タイミングが合うと排泄する。
○タイミングが合えば、オマルや便器で排泄することもある。

○午前と午後の2回寝をする。　○生活リズムが整い、睡眠時間が安定し、徐々に午後の1回寝になる。　○自分から布団に入り、一定時間睡眠をとる。
○帽子をかぶることに少しずつ慣れる。　○着替えるときに、保育者の言葉掛けで手足を動かそうとする。　○保育者に手伝ってもらい、簡単な衣服の脱ぎ着をしようとする。
○保育者に手や顔、体を清潔にしてもらい、きれいになる心地よさを感じる。　○手や足が汚れたことに気付いたり、不快に感じたりする。　○保育者に声掛けされ、自分でも口のまわりを拭こうとする。
○ずりばい･お座りができるようになる。　○はいはいができるようになる。　○伝い歩きができるようになる。　○歩行が安定してくる。　○よじ登る、くぐる、ぶら下がるなどの動きができるようになる。　○小走りができるようになる。
○つかまり立ちができるようになる。　○一人で立てるようになり、歩こうとする。　○少しの間、しゃがめるようになる。　○斜面の登り降りなど、全身を使って遊べるようになる。
○見たものに手を伸ばしつかもうとする。　○ものをつまめるようになる。　○つまむ、めくる、はがす、引く、たたくなどができるようになる。　○積む、はめる、通すなど手先や指先を使って遊べるようになる。
○見慣れない場所や人を見ると、泣く。　○人見知りをしたり、後追いをしたりする。　○身近な人に興味をもつ。　○保育者や友達のしていること、持っているものに興味をもち、真似たり触れてみたりする。　○友達に興味をもち、近くに行ったり一緒に遊ぼうとしたりする中で、要求の衝突（噛みつきや物の取り合いなど）が起こることもある。
○身近な保育者と過ごすことに慣れる。　○身近な保育者に慣れ、安心して過ごす。
○園庭や散歩に出かけ、いろいろなものを見る。　○身近な小動物を見たり触れたりしながら興味を持つ。　○探索活動が盛んになり、様々なものを見たり触れたりして関わろうとする。　○いろいろな素材に触れて遊ぶ。
○音の出る玩具に興味を示す。　○身近なものや玩具に興味をもって関わる。　○砂や水に触れながら様々な感触を楽しむ。　○散歩や戸外遊びを通して、身近な自然に親しむ。
○喃語がさかんになり、やり取りを楽しむ。　○指さしや声で伝えようとする　○意味のある言葉を発する。　○簡単な言葉を模倣して、繰り返し楽しむ。　○動作や言葉で自分の気持ちを伝えようとする。
○名前を呼ばれて反応する。　○簡単な言葉を理解する。　○名前を呼ばれると手を挙げたり返事をしたりする。　○保育者の言葉掛けが分かり行動できるようになる。
○快、不快を笑ったり泣いたりすることで表現する。　○保育者と一緒に、歌やふれあい遊びを楽しむ。　○歌に合わせて体を揺らしたり、リズムをとったりする。　○クレヨンでトントンしながら色がつく面白さを味わう。○腕を横や上下に動かしてなぐりがきをする。　○歌を歌ったり、保育者とリズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。
○意思や欲求を表情や身振りなどで表現する。　○興味あるものを模倣しようとする。

環境構成（○）と援助のポイント（＊）

○食事の姿勢が保持できるように、背中や足を安定させる工夫をする。　＊噛み切りやすい大きさ、軟らかさにし、一人一人に応じた未満児食に移行していく。　＊食べようとする意欲を大切にしながら、側について、スプーン･フォークの持ち方を知らせていく。
＊家庭との連絡を密にし、一人一人に応じてミルクや離乳食を進めていく。　○保育者が口を大きく動かして噛む仕草を見せ、よく噛んで食べられるよう繰り返し知らせていく。　＊苦手なものもでてくるので、一人一人の量や食べ方に合わせて介助していく。
＊いろいろな味や食材に慣れ、進んで食べられるようにしていく。　＊自分で食べようとする気持ちを大切にし、介助していく。
＊離乳食の進み具合に応じて、中期→後期→未満児食（刻み食）→完了へと進めていく。
○子どもが安心できるように、食事の席、布団の場所などの生活環境はいつも一定にする。　○「いただきます」や「ごちそうさまでした」の挨拶を言葉や仕草で繰り返し行い、知らせていく。
＊生活リズムを把握し、一人一人に合わせた離乳食や睡眠が取れるようにする。　○安心して眠れる環境を整える。
○室内の玩具や用具を清潔に保つ。　＊着脱や清潔面では、子どもの気持ちを受け止め、やさしく援助していく。　＊自分でしようとするのを励ましたり、うまくできたときは褒めるなどして、自分でしようとする気持ちを大切にする。
＊おむつ交換は、優しく言葉を掛けながら心地よさを感じられるようにする。　＊一人一人に合った方法や言葉掛けでおむつ交換をする。　＊無理強いせずオマルや便器に慣れていけるようにする。
＊一対一での関わりを大切にし、スキンシップを多く持ち信頼関係を築いていく。　＊保育者も子どもと一緒に遊びを楽しみながら、友達への興味や関心がもてるように働き掛ける。　＊友達との関わりが増えるので、保育者が仲立ちとなり一緒に遊びながら子ども同士の関係を見守っていく。
○興味や発達に合わせて子どもと一緒に遊びを楽しみ、他の子との関わりが広がる場を大切にする。
○保育者や友達の存在を受け止められるようにし、一人一人の興味関心を探り、安心して遊べる環境を整えていく。
○集団の中で友達との関わりをもてるような遊びを取り入れていく。
○外気浴や気分転換を兼ねて戸外に散歩に出かけれらるよう、ベビーカーや避難車を用意し、身近な自然に目を向けられるようにしていく。　○子どもが自分からしてみようという姿を大切にし、安心して快適に過ごせる場を整える。　＊一人一人の健康状態を把握し、天候や気温に留意しながら誤飲に十分に気を付け、砂･水遊びを取り入れていく。　○戸外遊びを通じて動植物に親しんだり、いろいろな素材の遊具で遊んだりして、体験を広げていけるようにする。　○興味のあるものに自ら関わりながら一人遊びが充実するよう、玩具を揃え、安心して遊べるように環境を整える。
○一人一人の興味に沿った玩具を用意する。　○子どもの興味や発達に合わせて、好奇心や探索活動が充実するように環境を整える。
○クッションマット等を用意し、ゆったりと安全に過ごせるようにする。　○指先を使って遊べるような玩具を用意し、保育者も一緒に遊ぶようにする。
＊保育者が手を添えて移動したり園庭を歩いたりして、体を動かす楽しさが味わえるようにする。
○子どもが思うままに動きたい気持ちを満足させるための探索活動がたくさんできるよう、室内外の環境を整える。
＊子どもからの喃語に丁寧に応じ発語への意欲を高める。　＊喃語や指さすものに対し、子どもの気持ちを汲み取り、受け止め、言葉にして返したり、様々な遊びが楽しめるようにしたりする。　＊興味のある絵本や繰り返しのある絵本を用意し、言葉を覚えたり使ったりすることを楽しめるようにしていく。　＊子どもが発する言葉に丁寧に応答し、一人一人とのやり取りを楽しめるようにする。
＊目を合わせながらゆったりと関わり、柔らかい声で話し掛けたり歌を歌ったりするなどして、心地よい時間を過ごせるようにする。　○絵本の内容を動作や言葉で表したり歌ったりして、模倣活動を楽しめるようにする。
○簡単な手遊びや歌、ふれあい遊びを取り入れ、楽しめるようにする。　○保育者と触れ合ったり、体を動かしたりできるように、いろいろな曲を用意する。

安全に関する留意点

月齢

○睡眠中は絶えず気を配り、目を離さないようにし窒息やSIDSに気を付ける。　○探索活動が活発になるので、危険な箇所がないように環境設定をする。　○物の取り合いなどで、噛みつき･引っ掻きなどが起きやすくなるので、未然に防げるようにする。
○転倒･転落等の思わぬ事故のないように配慮する。
○災害時には子どもたちが速やかに避難できるように保育者間の連携を密にし、毎月の避難訓練を実施していく。

期

○はいはいや伝い歩き、歩行での探索ができるよう、保育室･園庭の環境を整える。
○誤飲などを避けるために口や鼻に入らないよう、玩具の大きさ等に配慮する。
○散歩をする際は、事前に避難車の安全点検や散歩コースの危険箇所を把握するとともに、職員配置に留意する。
○子どもの健康状態について、連絡帳や検温表でこまめに確認し、安全に楽しく水遊びができるようにする。
○水遊びや砂遊びの際には、子どもから目を離さず危険のないよう職員間の役割分担を事前に確認しておく。
○暖房器具を使うときは温度や湿度に気を付け，換気をこまめにする。
○感染症の予防や対策について園だよりなどで知らせる。
○風邪が流行する時期なので、室内の換気を十分に行い、一人一人の体調管理に留意する。

子育ての支援

月齢

○SIDS予防について、園だけでなく家庭へも啓発する。　○言葉掛けを理解していく時期なので、家庭でもたくさん語り掛けてもらうよう伝える。　○友達への興味が芽生えることによりトラブルが起こりやすいので、トラブルが起きた時には原因や状況を伝え、理解してもらう。
○子育ての悩みや疑問など、保護者の気持ちを受け止め、丁寧に関わっていく。

期

○連絡帳を通して園での様子を伝える他、保護者とのコミュニケーションを多く持ち、信頼関係を築いていく。
○感染症にかかりやすくなるため、情報提供をするとともに連絡を密に取り合う。
○薄着の習慣を付けることで、免疫力を高め健康な体づくりに役立つことを知らせていく。
○子どもの様子を伝える中で、一年間の成長を保護者と共に喜び、安心して進級を迎えられるようにする。

※行事のねらい･･･①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割　④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

0歳児　はじめの一歩!

初めての社会生活

愛着関係

初めての社会体験は不安でいっぱい。できるだけ同じ保育者が継続的に関わり、声や表情、動きなどから子どもの状態を読み取り、目を合わせて気持ちを十分に受け止め、表情豊かに優しく語りかけます。

保育者との間に愛着関係を築くことで、子どもの情緒は安定し、周りの人やものに、興味や関心をもつようになります。

❋保護者も安心できる関係❋

家族以外の人にあずけるのは初めて。「泣いてるかしら？」「食べてるかな？」と不安がつのります。

保育者が保護者の不安や悩みに寄り添い、子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共感しあいます。

連絡帳や送迎時の会話などを通して、共に子育てをするために園での様子と家庭での様子を互いに情報交換し、保護者の話をじっくり聞くようにします。

0歳児（7か月～12か月）　広がる世界

ふれあい遊び

一対一の関わりを大切にし、触れ合う心地良さや楽しさを味わえるように、保育者と一緒にふれあい遊びやわらべうた、手遊びなどを楽しみます。
「人との関わりが深まる」「人と関わることが楽しい」という経験を重ねることで、人間関係の基礎が育まれます。

探索活動

遊びの中で体を動かす機会を十分に確保すると、自ら体を動かそうとする意欲が育ちます。
はいはいや伝い歩き、歩行などで自由に好きなところへ行き、探索遊びを楽しめるように、十分なスペースを確保し、危険な箇所がないように環境を整えます。
築山のぼりを取り入れたり、室内にマットの山を取り入れたりすることで日々の経験の積み重ねから、手や足の運動機能が発達し、斜面や段差、階段などの上り下りも自分でできるようになり、子ども達の世界はさらに広がります。

❋ちょこっとエピソード❋

マットの上で遊んでいたＡちゃん。3歳児のＢくんが楽しそうにネット橋に登る姿に興味津々。自らマットを飛び出して、ネット橋の下にはいはいで移動していきました。保育者は「お兄ちゃん上手だね。すごいね。」と共感します。遊びの中で、自然に異年齢児と関わることができる環境、そして子どもが自分でしようとする姿を尊重し、温かく見守ること、大切にしたいですね。

0歳児（1歳～1歳6か月）　伝えたい思い

自分で食べたい!

自分でコップを持って飲んだり、手づかみやスプーンを使って食べたりと生活の場面において、自分でしようとする姿が出てきます。

手づかみ食べは自分の口にどれくらいいれたらいいかわかるようになる大切な経験となります。

また、スプーンを使って食べる経験をする中で、道具を使うことへの認識を育んでいく時期です。うまく口へ運べなくても、「これを食べたい」、「自分でやりたい」という子どもの気持ちを尊重して関わっていきます。

歩くの楽しい

この頃になると身体機能が発達し、ほとんどの子が歩行できるようになり、活動の範囲が広がります。

歩いたり、小走りしたりできるように、室内を広くしたり、戸外での活動を多く取り入れたりします。

これなあに?

指差しや表情、片言などでやってほしい、やりたいという思いを主張することが増えてきます。表現しようとする意欲を積極的に受け止めて、丁寧に言葉で応答し、気持ちを共有します。このような経験の積み重ねから言葉の理解や発語の意欲が育ちます。

❋ちょこっとエピソード❋

Aちゃんがコンビカーで遊んでいると、1歳児のBくんがそっと後ろから押してくれました。しばらくして…。今度は1歳児のCちゃんが乗っているコンビカーを、Aちゃんが後ろから押すお手伝い。

押してもらったことが心に残り、自分も押してみたいと思ったのでしょう。周囲に興味を持ち始め、安心できる環境の下、自分の思いも表現できた場面です。

0歳児（1歳6か月～　）　いっしょもいいね

運動遊び

がんばってのぼれたね

大きな怪我がおきないように、保育者は連携をとりながら、見守ります。

子どもが思うままに動きたい気持ちを満足させるため、安全で活動しやすい環境を整えます。探索活動を楽しんだり、保育者を真似て色々な動きを経験したりすることで、全身を使って遊べるようになります。

保育者も一緒に遊びながら、体を動かすことが楽しいという嬉しさを共有します。

友達への興味

保育者との信頼関係ができると子どもは保育者の見守りの中で、いろいろなことに興味をもって行動するようになります。

興味が身近な友達へと広がり、見立て遊びや模倣遊びを保育者や友達と一緒に楽しみます。友達と楽しい気持ちを共有し、遊びの中で人と関わる喜びを味わえるようになります。

一緒に遊ぶ中で、噛みつきや物のとりあいなどが起こることもありますが、保育者が仲立ちとなり、子ども同士の関係を見守っていきます。

❀ちょこっとエピソード❀

狭い場所に入り込んで遊ぶことが大好きな子ども達。Ａくんと Ｂちゃんがくつろいでいるところへ、Ｃくんが･･･。「僕も入りたい」の気持ちでいっぱいのＣくんは何とか入り込もうと必死です。あれこれ考えてトライしていたＣくんでしたが、最後はお友達がゆずってくれ、無事に入ることができました。

遊びの見守りでは、「危ないことがないように見ていく」のは最低限の役割です。一人一人の子どもの気持ちを受け止め、子どもをどの位置から見るか、どんな声をかけるか、どのタイミングで援助するのが子どもにとってよいのか、考えながら見守ることが大切ですね。

（3）１歳児
年間カリキュラム

≪子どもの教育及び保育目標≫

安心できる保育者との関係の下で、
自分でしようとする気持ちが芽生える。

１ 歳児は月齢の違いによる発達の差が、０ 歳児ほどではありませんが、まだ大きいため、期の中で低月齢児と高月齢児に分けて、子どもの発達や活動の見通しを立てています。
※予想される活動の★マークは、前期の高月齢児の姿に、この期の低月齢の姿が追いつき、期を追って同じ活動を経験していくことを表しています。

1歳児　　Ⅰ期（4月～5月）

教育・保育目標		安心できる保育者との関係の下で，自分でしようとする気持ちが芽生える。	
子どもの姿		○新しい生活や環境に戸惑いや不安を感じ，泣いたり落ち着かなかったりする子もいる。 ○安心できる保育者の下で，少しずつ好きな玩具で遊ぶようになってくる。	
ねらい		○新しい環境に慣れ，ゆったりした雰囲気の中で安心して好きな遊びを楽しむ。	
月齢		低月齢児・新入所児	高月齢児
養護	生命の保持	○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し，快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め，スキンシップを多くもち，愛着関係を深め，安心して過ごせるようにする。	
	情緒の安定	○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。	
教育及び保育（予想される活動）	健康（食事・排泄・睡眠・着脱・清潔・運動）	○手づかみで食べたり，スプーンを使って食べようとしたりする。	○こぼしながらもスプーン，フォークを使って食べようとする。
		○汚れたらおむつを替えてもらい，気持ちよさを感じる。	○保育者に声掛けされ，オマルや便器に座ることに慣れる。
		○午前中に眠くなる子もいるが，徐々に生活リズムが整い，安心して眠れるようになる。	
		○着替えるときに保育者の言葉掛けで手足を動かそうとする。	○保育者に手伝ってもらい，簡単な衣服の脱ぎ着をしようとする。
		○手や足が汚れたことを不快に感じる。	○保育者に声掛けされ，口のまわりを拭こうとする。
		○一人で立てるようになり，歩こうとする。	○よじ登る，くぐる，ぶら下がるなどの動きができるようになる。
		○つまむ，めくる，はがす，引く，たたくなどができるようになる。	○積む，はめる，通すなど手先や指先を使って遊べるようになる。
	人間関係・環境・言葉・表現	○保育者と触れ合う中で安心して過ごせるようになり，身近な人に興味をもつ。	
		○戸外遊びや散歩を通して，春の自然に触れる。	
		○好きな玩具や遊具に興味をもち，いろいろな遊びを楽しむ。	
		○指さしや片言で伝えようとする。	○簡単な言葉を模倣して，繰り返し楽しむ。
		○名前を呼ばれると手を挙げたり返事をしたりする。	○保育者の言葉掛けが分かり行動できるようになる。
		○歌に合わせて体を揺らしたり，リズムをとったりする。	○クレヨンでトントンしながら色がつく面白さを味わう。
		○意思や欲求を表情や身振り，片言で表現する。	○興味あるものを模倣しようとする。
援助のポイント（＊）	環境構成（○）と	○子どもが安心できるように，食事の席，布団の場所などの生活環境はいつも一定にする。 ＊いろいろな味や食材に慣れ，進んで食べられるようにしていく。 ＊自分から食べようとする意欲を大切にし，一人一人の量や食べ方に合わせて介助していく。 ＊一人一人に合った方法や言葉掛けでおむつ交換をする。 ＊一人一人のタイミングに合わせ，無理強いせずオマルや便器に慣れていけるようにする。 ＊一人一人の発達や生活リズム・健康状態を把握し，無理なく安心して過ごせるようにしていく。 ＊着脱や清潔面では，子どもの気持ちを大切にし，できないところを援助していく。 ○一人一人の子どもがじっくりと遊べるように一人遊びが保障される空間をつくり，発達に合った玩具を用意する。 ＊保育者との温かい触れ合いや優しい言葉掛けで安心して過ごせるようにする。 ＊戸外に出ることで気分転換を図ったり，避難車で移動することで行動範囲を広げたりし，春の自然に興味がもてるようにしていく。 ＊子どもの思いを喃語や一語文から感じ取り，優しく応じながら共感していく ようにする。 ○保育者と触れ合ったり，体を動かしたりできるように，簡単な歌・手遊び・体操曲などを用意する。	
留意点	安全に関する	○災害時には子どもたちが速やかに避難できるように保育者間の連携を密にし，毎月の避難訓練を実施していく。 ○玩具など誤飲の危険はないか，生活や遊びの場を点検し，確認しておく。 ○異年齢児との発達の差を考慮し，遊びの場や時間を工夫する。 ○物の取り合いなどで，噛みつき・引っ掻きなどが起きやすくなるので，未然に防げるようにする。 ○散歩をする際は，事前に避難車の安全点検や散歩コースの危険箇所を把握するとともに，職員配置に留意する。	
子育て支援		○送迎時や連絡帳を通して園での子どもの様子を伝えたり，家庭での姿を聞いたりし，保護者との関わりを大切にしながら信頼関係を築いていく。	
行事		⑤入園式　③端午の節句　⑤誕生会　④内科健診　④歯科健診	
食育		○「おいしいね。」と笑顔で言葉を掛け，楽しく食事ができるようにする。	

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

1歳児Ⅰ期　ほっこり ゆったり 楽しいな

特定の保育者が、食事や睡眠、排泄などに関わることで、新しい環境への戸惑いや不安が和らぐようにします。また、抱っこやおんぶ、ふれあい遊びなど、スキンシップを多くもち、愛着関係を築いていくことで、安心してすごせるようになります。

「おそと きもちいい～」(低月齢児)

戸外に出て、日差しの暖かさや風の心地良さを感じられるようにし、不安な気持ちをやわらげたり気分転換したりできるようにします。

安心して過ごせるようになると、散歩に出かけ、タンポポやダンゴムシなどに触れることで春の自然に興味が持てるようになります。

「やってみよう!」(高月齢児)

年上の子の真似をしています

室内外でいろいろな動きが経験できるような用具を用意します。

保育者と一緒に遊ぶことで、全身を使って動く心地良さや喜びを感じ、様々な体の動きができるようになります。

❀ちょこっとエピソード❀

麦茶や牛乳を少し飲むと「ジャー」っと言いながら、コップをひっくり返してしまうＡくん。少しでも飲んでもらいたいという気持ちから、友達が飲んでいる姿を知らせたり、保育者が飲む真似をして「先生ぴかぴかだよ」と空のコップを見せたりしていきました。

繰り返し関わっていくうちに、表情や仕草から、こぼすのはもう飲みたくないサインなのかもしれないと思い、「いらなかったらコップを置いてね」と伝えるようにしたところ、コップをそっとおくようになりました。少しずつ飲む量も増えていき、全部飲めたときは空のコップを嬉しそうに見せるようになりました。保育者が子どもの行為の意味を探ろうとしたことで、言葉にできない気持ちに気付けた場面ですね。

1歳児　　Ⅱ期（6月～8月）

教育・保育目標		安心できる保育者との関係の下で，自分でしようとする気持ちが芽生える。	
子どもの姿		○園の生活に慣れ，生活リズムが安定し落ち着いて過ごす中で，行動範囲が広がり探索活動が盛んになってくる。 ○自分の気持ちを仕草や言葉で伝えようとするようになってくる。 ○戸外に出て自然物に触れて遊ぶことを楽しむようになる。	
ねらい		○保育者に見守られながら，いろいろな物への興味や関心を広げていき，探索活動を楽しむ。	
月　齢		低月齢児	高月齢児
養護	生命の保持	○一人一人の健康状態に留意し，衛生面に気を付けながら休息と活動のバランスをとり，健康に過ごせるようにする。	
	情緒の安定	○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。	
教育及び保育（予想される活動）	健康（食事・排泄・睡眠・着脱・清潔・運動）	○こぼしながらもスプーン，フォークを使って食べようとする。（★）	○こぼしながらも自分で食べたり飲んだりする。
		○保育者に声掛けされ，オマルや便器に座ることに慣れる。（★）	○保育者に声掛けされ便器に座り，タイミングが合うと排泄する。
		○生活リズムが整い，睡眠時間が安定する。	○自分から布団に入り，一定時間睡眠をとる。
		○保育者に手伝ってもらい，簡単な衣服の脱ぎ着をしようとする。（★）	○簡単な衣服を脱いだり，ときにははいてみようとする。
		○シャワーをしたり着替えをしたりして，清潔になった心地よさを感じる。	
	人間関係・環境・言葉・表現	○斜面の登り降りなど，全身を使って遊べるようになる。	○バランスをとって走れるようになる。
		○積む，はめる，通すなど手先や指先を使って遊べるようになる。（★）	
		○友達への興味が芽生えるが自己中心的な姿もあり，噛みつき，物の取り合いなど要求の衝突が起こることもある。	
		○砂・水・泥などに触れ，夏の遊びを楽しんだり，探索活動を楽しんだりする。	
		○簡単な言葉を模倣して，繰り返し楽しむ。（★） ○保育者の言葉掛けが分かり行動できるようになる。（★）	○動作や言葉で自分の気持ちを伝えようとする。
		○クレヨンでトントンしながら色がつく面白さを味わう。（★） ○興味あるものを模倣しようとする。（★） ○腕を横や上下に動かしてなぐりがきをする。	○歌を歌ったり，保育者とリズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。
環境構成（○）と援助のポイント（＊）		○子どもが安心できるように，食事の席，布団の場所などの生活環境はいつも一定にする。 ＊食べようとする意欲を大切にしながら，側について，スプーン･フォークなどの持ち方を知らせていく。 ＊一人一人のタイミングを把握し，オマルや便器に座れるよう声掛けする。 ＊生活リズムを整えながら暑い時期を健康に過ごせるよう，日陰を作ったり，温度・湿度に留意したりし，水分補給・休息を十分に取れるよう配慮する。 ＊シャワーをしたり着替えをしたりして，皮膚を清潔に保ち，さっぱりとした心地よさを感じられるようにする。 ＊自分でしようとする気持ちを大切にし，できないところは援助していく。 ○全身や指先を使う遊具や玩具を用意し，楽しく遊べるように配慮するとともに，安全な環境を整える。 ○物の取り合いなどによって子どもの意欲をそぐことのないよう，十分な数の玩具やスペースを用意する。 ○天気・気温などを考慮し，必要な用具を準備して砂・水・泥遊びを楽しめるようにする。また，探索活動ができるよう安全な場を保障する。 ＊子どもの思いや言葉を受け止め，丁寧に応答し，伝えようとする気持ちを育てていく。 ＊生活や遊びの中で子どもの好きな手遊びや歌を繰り返し歌い，リズムや言葉，身振りを楽しめるようにする。	
安全に関する留意点		○災害時には子どもたちが速やかに避難できるように保育者間の連携を密にし，毎月の避難訓練を実施していく。 ○裸足で遊ぶことが多い時期なので，石拾いなど危険のないように環境を整えていく。 ○水遊びや砂遊び，プール遊びの際には子どもから目を離さず，危険のないよう職員間の役割分担を事前に確認しておく。 ○子どもの健康状態について，連絡帳や検温表でこまめに確認し，安全に楽しく水遊びができるようにする。	
子育て支援		○夏を元気に過ごすため，流行しやすい感染症や対策を伝え，健康状態をこまめに連絡しあう。 ○友達への興味が芽生えることによりトラブルが起こりやすくなるので，そのときは原因や状況を伝え，理解してもらう。	
行　事		①②保育参加　①⑤給食参観　④引き渡し訓練　③七夕　②夕涼み会　⑤誕生会	
食　育		○保育者と，食前食後に仕草や言葉で挨拶をする習慣を身に付けられるようにする。	

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

1歳児Ⅱ期　なんだろう? おもしろそう!

「なんだろう?」

虫や草花に触れたり、年上の子と遊んだりする機会を作るなど、興味のあるものを自分で見つけられるような環境を用意します。

安全に留意しながら保育者が側で見守ることで、子ども達は安心して行動範囲を広げ、探索活動を楽しみ、意欲や好奇心が高まっていきます。

「おもしろそう!」

寒天遊び。口に入れても大丈夫！

砂、泥、水、氷、寒天、片栗粉など、様々な感触の素材を用意し、「冷たいね」「気持ちいいね」などと言葉を掛けながら一緒に遊び、感触を楽しめるようにします。

いろいろな素材に触れることで、五感を豊かに働かせるようになっていきます。

暑さによる体力の消耗が大きい時期なので、朝の涼しい時間帯に戸外へ出て、日陰で遊んだり、こまめな水分補給と十分な休息をとったりして、戸外や室内での過ごし方に留意していきます。

時には外でのおやつもおいしいね

一人一人のタイミングに合わせてトイレに誘い、排尿できたときは「でたね」「すごいね」と喜びを共感していきます。

でないときや、行きたがらないときには、その気持ちを受け入れ「また今度行こうね」と次につながるような言葉を掛けます。

❋ちょこっとエピソード❋

戸外遊びは、喜んで遊ぶＡちゃんでしたが、夏ならではの水遊びでは、「いやだー」と泣いていました。無理には誘わず、好きな砂場や滑り台などで遊べるようにしました。2･3日すると、自由に使えるようにと置いておいた水遊び用の玩具の中から洗面器を取り、保育者に「おみず」と、入れてもらいに来ました。この日は、まだみんなの中には入っていけませんでしたが、楽しんでいる友達の様子を見ているうちに、少しずつ友達の中に入っていき、一緒に遊べるようになりました。Ａちゃんの気持ちを大切にし、遊ぼうと思えるまで待つことで、「やってみよう」という気持ちになったのだと思います。待つって大事ですね。

1歳児　　Ⅲ期（9月～12月）

教育・保育目標		安心できる保育者との関係の下で，自分でしようとする気持ちが芽生える。	
子どもの姿		○行動が活発になり戸外で体を動かしたり，散歩を楽しんだりするようになる。 ○友達との関わりが増える中，自我も出てきて自己主張が多くなってくる。	
ねらい		○保育者や友達と一緒に体を動かしたり，言葉のやり取りや模倣を楽しんだりする。 ○身近な自然に親しみを持ち，散歩を楽しむ。	
月　齢		低月齢児	高月齢児
養護	生命の保持	○気温や体調の変化に留意し，健康で快適に過ごせるようにする。	
	情緒の安定	○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び，友達との触れ合いを楽しめるようにする。	
教育及び保育（予想される活動）	健康（食事・排泄・睡眠・着脱・清潔・運動）・人間関係・環境・言葉・表現	○こぼしながらも自分で食べたり飲んだりする。（★）	○食べ物の好みがはっきりしてくる。 ○保育者に促され，奥歯で噛んで食べようとする。
		○保育者に声掛けされ便器に座り，タイミングが合うと排泄する。（★）	
		○自分から布団に入り，一定時間睡眠をとる。（★）	
		○簡単な衣服を脱いだり，ときにははいてみようとする。（★）	○ズボンや靴の着脱に興味をもち，自分で着脱しようとする。
		○保育者と一緒に石鹸を使って手を洗う。	
		○その場で両足ジャンプができるようになる。	○ボールを投げたり，追いかけたりする。
		○友達と物の取り合いやぶつかり合いをすることもあるが，興味のある遊びを真似るなどして，友達と関わることを喜ぶ。	
		○戸外遊びや散歩に出かけ，様々なものを見たり触れたりして関わろうとする。	
		○玩具を出して遊んだり，保育者と一緒に片付けたりする。	
		○動作や言葉で自分の気持ちを伝えようとする。（★）	○生活の中で使う言葉が増えてくる。
		○歌や音楽の楽しい雰囲気を感じ，体を動かしたり模倣遊びをしたりする。	
		○小麦粉粘土やシール貼り，なぐりがきなどの遊びを通して，表現する楽しさを味わう。	
環境構成（○）と援助のポイント（＊）		○子どもが安心できるように，食事の席，布団の場所などの生活環境はいつも一定にする。・ ＊苦手なものもでてくるので，一人一人の量や食べ方に合わせ，自分から食べようとする意欲を大切にしていく。 ○食事のときに一緒に噛む真似をして見せるなど，噛むことの大切さを知らせていく。 ＊一人一人の排泄間隔に合わせトイレに誘い，排泄できたときは，十分に褒めたり，認めたりする。 ＊自分でという気持ちがでてくるので，励ましたり見守ったりしながら意欲につなげ，できた喜びを共感していく。 ＊手洗いの仕方を丁寧に知らせ，習慣付けられるように繰り返し援助していく。 ○遊びながら経験させたい動きを引き出せる環境を工夫する。 ＊生活や遊びの中で，保育者や友達の真似をして遊んだり，やり取りをして楽しんだりする機会を多くもてるようにしていく。 ＊友達との関わりの中でトラブルが起きたときには，保育者が仲立ちとなり友達との関わり方を知らせていく。 ＊戸外遊びや散歩では，子どもが興味をもつような言葉掛けをしながら，落ち葉や木の実拾いなど身近な自然に親しめるようにする。 ○玩具の置き場所は写真や絵などで区分けし，遊びやすく片付けやすいようにする。 ＊簡単な言葉遊びや模倣遊びを取り入れ，やり取りを楽しめるようにしていく。 ＊子どもの好きな歌や季節の歌を一緒に歌ったり，簡単なリズム体操やダンスをしたりするなど，体を動かして楽しめるようにする。 ○思い思いに表現することを楽しめるように様々な素材の物を用意しておく。	
安全に関する留意点		○災害時には子どもたちが速やかに避難できるように保育者間の連携を密にし，毎月の避難訓練を実施していく。 ○暖房器具を使うときは，温度や湿度に気を付け，換気をこまめにしていく。 ○感染症の予防や対策について園だよりなどで知らせ，手洗いやうがいなど清潔について習慣付けることの大切さを伝える。 ○散歩をする際は，事前に避難車の安全点検や散歩コースの危険箇所を把握するとともに，職員配置に留意する。	
子育て支援		○自我の芽生えから友達とのトラブルも多くなってくることを伝え，成長の過程を共感しあう。 ○薄着の大切さを伝え，気温に応じて調節しやすい衣服を用意してもらう。 ○家庭と保育所での食事の様子を伝え合いながら，噛むことや楽しく食べることの大切さを知らせていく。	
行　事		⑤遠足　①運動会　⑤いもほり　③お月見　④内科健診　④歯科健診　⑤クリスマス会　③餅つき会　⑤誕生会	
食　育		○食べたい意欲を育て，よく噛んで食べられるようにする。	

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

1歳児Ⅲ期　自分でやりたい!

「みーつけた」

危険のない場所では、自由に散策します

自分で歩くことをよろこび、秋の自然に触れて楽しめるよう散歩の機会を多くもてるようにします。

寄り道を楽しみながらの探索散歩をたっぷりするなかで、保育者が自然物に興味をもって関わったり、声をかけたりしていきます。

そうすることで、子どもが自分で発見していく楽しさを感じられるようになっていきます。

のびのび　元気

保育者が子どものやりたい気持ちを受け止めて、一緒に体を動かしたり、側で見守ったりします。

たっぷりと遊べる時間や場を確保することで、自分で体を動かすことの楽しさや嬉しさを味わえるようになります。

自分でという気持ちが出てくるので、まずはこどもに任せます。保育者はゆとりをもって接し、気持ちをくみとりながら見守り、必要に応じて出来ないところを手伝っていくようにします。

「できたね」などの言葉を掛け、自分でする喜びを共感していきます。

手洗いが楽しい気持ちで行えるように、保育者が一人一人と丁寧に関わり「きれいになったね」「気持ちがいいね」と声をかけ、心地よさを感じられるようにします。

繰り返し行っていく中で、手洗いの習慣が少しずつ身についていきます。

❀ちょこっとエピソード❀

４色ある登り棒のうちのピンクの登り棒を一瞬先につかんだＡちゃんは、少し遅れて同じピンクの登り棒をつかんだＢちゃんに、「Ａちゃんの！メッ！」と言いました。すると、Ｂちゃんも「ピンク、いい！」と、お互い片言ながらも自分の気持ちを一生懸命に伝えようとしていました。そこにやってきたＣくん。「Ａちゃんのよ！メッ！」とＡちゃんをかばうように間に入っていきました。側で見守っていた保育者は、「ＡちゃんもＢちゃんもピンクが好きなんだよね。」と二人の気持ちを受け止めるようにしていきました。３人ともまだきちんとした言葉にはなっていませんが、小さいながらに”相手に気持ちを表現する”という行為が、子ども同士の中でも、生まれているのだと感じ取れる一場面でした。

1歳児　　Ⅳ期（1月～3月）

教育・保育目標		安心できる保育者との関係の下で，自分でしようとする気持ちが芽生える。	
子どもの姿		○保育者に援助されながら簡単な身の回りのことを自分でしようとする気持ちが芽生える。 ○保育者の仲立ちの下，友達と簡単なやり取りをしたり一緒に遊んだりするようになる。	
ねらい		○簡単な身の回りことを自分でしようとする。 ○保育者や友達と一緒にやり取りをしたり，関わったりして遊ぶことを楽しむ。	
月　齢		低月齢児	高月齢児
養護	生命の保持	○自分でやりたいという気持ちを大切にし，意欲的に生活できるようにする。	
	情緒の安定	○自我の芽生えを受け止めながら，心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	
教育及び保育（予想される活動）	健康（食事・排泄・睡眠・着脱・清潔・運動）	○苦手なものでも保育者の声掛けで，食べてみようとする。	
		○楽しい雰囲気の中で，スプーン・フォークを使って自分から意欲的に食べようとする。	
		○排尿の間隔が長くなり，保育者の声掛けで便器で排尿することが増える。	○日中パンツで過ごすようになり，排泄前後に動作や言葉で知らせることもある。
		○自分から布団に入り，一定時間睡眠をとる。（★）	
		○ズボンや靴の着脱に興味をもち，自分で着脱しようとする。（★）	○保育者に手伝ってもらいながら，簡単な衣服の着脱を自分でしようとする。
		○鼻水が出たときは知らせる。また鼻をかんでもらったり自分で拭こうとしたりする。	
		○ボールを投げたり，追いかけたりする。（★）	○体のバランスのとり方が上手になり，全身を使って遊ぶ。
	人間関係・環境・言葉・表現	○友達と同じ遊びをしたり，保育者の仲立ちで一緒に遊んだりして関わりを楽しむ。	
		○冬の自然（風，氷，霜柱など）に触れて遊ぶ。	
		○生活や遊びの中で色や形に興味をもつ。	
		○生活の中で使う言葉が増えてくる。（★）	○生活や遊びの中で，保育者と簡単な言葉のやり取りを楽しむ。
		○保育者と一緒に，見立て遊びやつもり遊びを楽しむ。	
		○保育者や友達と一緒に歌を歌ったり，身近な音楽に合わせて体を動かしたりする。	
		○簡単な繰り返しのある絵本に興味をもち，好きなフレーズを真似て楽しむ。	
環境構成（○）と援助のポイント（＊）		＊自分で食べようとする気持ちを受け止め，少しずつ苦手な物が食べられるように手助けをし，がんばりを認めたり，励ましたりする。 ＊一人一人の排泄のサインを見逃さず，さりげなくトイレに誘い，成功したときは一緒に喜び，褒めて自信へとつなげていく。 ＊自分でしようとする気持ちを大切にしながら援助し，うまくいったときには褒めて喜びを共有し，自分でできたことの喜びを積み重 ねていけるようにする。 ＊興味や発達過程に合わせて遊べる環境を工夫し，「してみたい」気持ちを引き出せるよう見守ったり，保育者も楽しみながら一緒に遊んだりする。 ○子どもが興味をもちそうな絵本や玩具を選び，手の届く所に用意しておく。 ＊一人一人の子どもの遊ぶ姿を見守り，保育者が仲立ちとなって友達と遊ぶことの楽しさを味わえるようにする。 ＊子どもの気付きを受け止め，好奇心や興味を満たし，共有できるようにする。 ○様々な音，色，形，手触りなどに気付けるような環境を工夫する。 ＊子どもの伝えたいことを受け止め，言葉を補ったり引き出したりして，やり取りを楽しめるようにする。 ○一対一でのやり取りの中で，見立て遊びやつもり遊びを楽しめるように必要な玩具を用意し，環境を整える。 ＊リズミカルな曲をかけ，楽しく体を動かせるようにしたり，繰り返しのある話や知っているものが登場する絵本を読み聞かせたりするなどして，模倣活動を楽しめるようにする。 ＊２歳児クラスのスペースを使って遊ぶ機会を設け，進級への期待がもてるようにする。	
安全に関する留意点		○災害時には子どもたちが速やかに避難できるように保育者間の連携を密にし，毎月の避難訓練を実施する。 ○安全な環境や活動内容，子ども同士の関わりなどに十分に注意を払い，事故防止に努める。 ○暖房器具を使うときは，温度や湿度に気を付け，換気をこまめにする。 ○風邪が流行する時期なので，保育者と一緒に手洗いをし，水分補給を行い，一人一人の体調管理に留意する。	
子育て支援		○一年間の成長した姿への喜びを共有すると共に、安心して進級を迎えられるようにする。 ○感染症の予防や対策について園だよりなどで知らせ，手洗いなど清潔について習慣付けることの大切さを伝える。	
行　事		⑤誕生会　③節分　③ひな祭り　①発表会　⑤お別れ会	
食　育		○フォークやスプーンを使って，最後まで自分で食べられるようにしていく。	

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

1歳児Ⅳ期　わくわく　うれしいな

「いっしょにあそぼ」

見立て遊びやつもり遊びを楽しめるように、玩具は取り出しやすい場所に十分な数を用意します。保育者も言葉を添えながら一緒に遊ぶことで、イメージがふくらみ、保育者や友だちとのやり取りを楽しみ、遊びが豊かなものになっていきます。

自然となかよし

寒くても子ども達は戸外へ出るのが大好きです。天気や気温、一人一人の体調を見ながらなるべく戸外へ出る機会を持つようにします。凧揚げをして風を感じたり、氷や雪に触れて冷たさや不思議さに気づいたりと、保育者が冬ならではの発見や驚きを受け止め、共感していくことで、自然への好奇心や興味が高まっていきます。

自分でできることが増えてきているので、一人一人のペースで取り組めるよう、側で見守り、できたときには喜びを共有します。できたことの喜びを積み重ねていくことで、自信につながっていきます。

個人のマークがわかるようになり、自分の場所にしまえるようになります。

鼻水がでていることに気付いたり、自分で拭こうとする姿を認め、「気持ち悪いね」「すっきりしたね」などと声をかけることで清潔にする心地よさを感じられるようにします。

❋ちょこっとエピソード❋

絵本への興味が高まってきたＡくん。お気に入りの絵本は「もういっかい！」と何度も繰り返し読んでもらおうとします。保育者の膝に座り、何度か読んでもらうと、満足した様子で違う遊びに移っていきました。

この時期の子ども達は繰り返しのやり取りが大好きです。Ａくんも、保育者との一対一の丁寧な関わりの中で、安心して好きな絵本を繰り返し読んでもらったことで、夢中になれ、気持ちが満たされたのだと思います。子どもの「もういっかい！」の気持ち、大切にしていきたいですね。

（4）２歳児（満３歳児）
年間カリキュラム

≪子どもの教育及び保育目標≫

基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。

2歳児　　Ⅰ期(4月～5月)

教育･保育目標		基本的な運動機能が発達し，身の回りのことを自分でしようとする。
子どもの姿		○新しい環境に戸惑いや不安を感じ，保護者と離れられなかったり，泣いたりする子がいる。 ○新しい環境の中でも，保育者をよりどころにして好きな遊びを見付け，楽しむ姿も見られる。
ねらい		○新しい環境に慣れ，安心して過ごす。 ○保育者や友達と一緒に好きな遊びを楽しむ。
養護	生命の保持 情緒の安定	○一人一人の健康状態を把握し，快適な生活ができるようにする。 ○一人一人の子どもの甘え・不安・要求を受け止め，安定して生活できるようにしながら信頼関係を築いていく。 ○保育者とのつながりを基に友達にも関心を広げ，関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。
教育及び保育（予想される活動）	健康・人間関係・環境・言葉・表現	○保育者に見守られ，こぼしながらもスプーンやフォークを使って自分で食べようとする。 ○保育者と一緒にトイレに行き，排泄しようとする。 ○保育者に側についてもらい，安心して眠る。 ○保育者に手伝ってもらいながら，簡単な衣服の着脱を自分でしようとする。 ○保育者と一緒に手を洗い，清潔にする。 ○新しい生活の場や人に慣れ，好きな玩具や遊具を見つけて遊ぶ。 ○保育者や友達との関わりをもちながら安心して過ごす。 ○戸外遊びや散歩で春の自然に触れ，親しむ。 ○名前を呼ばれると返事をしたり，朝夕や食事のあいさつを言おうとしたりする。 ○自分の思いを身振りなどいろいろな方法で表そうとする。 ○好きな絵本を繰り返し読んでもらうことを喜ぶ。 ○保育者と歌を歌ったり，簡単な手遊びやわらべ歌などを楽しんだりする。 ○保育者や友達と一緒に音楽に合わせて，自分なりの動きを楽しむ。
環境構成（○）と援助のポイント（＊）		○保育室は明るく清潔に整え，親しみやすく，楽しい雰囲気にする。 ＊食事･睡眠･排泄などが安心してできるように，個々の様子を把握し，一人一人に応じて適切に対応していく。 ＊新しい環境に慣れず食事や排泄などを嫌がる子には，無理強いせず丁寧に気持ちを受け止めて，ゆったりと関わっていく。 ○自分のものや場所がわかるようにマークをつける。 ＊保育者が身の回りのことを一緒に行いながら，生活の仕方を知らせていく。 ○一人一人が好きな遊びを見つけられるように，いろいろな玩具やコーナーを用意する。 ＊子どもの行動や思いを受け止め，言葉にして伝えながら，保育者や友達との関わりをもてるようにする。 ＊危険箇所を確認し，十分な安全を確保した上で戸外遊びや散歩をする。 ○春の自然を感じ取れるように，外気や草花に触れる機会を多くもつ。 ＊保育者が積極的に返事や挨拶をし，毎日の繰り返しの中で挨拶の大切さを知らせていく。 ＊繰り返し絵本を読んだり，簡単な手遊びやわらべ歌遊びを取り入れたりして，保育者や友達と一緒に楽しめるようにする。 ○保育者と一緒に体を動かすことを楽しめるように，親しみやすい音楽を用意する。
安全に関する留意点		○災害時には子どもたちが速やかに避難できるように保育者間の連携を密にし，毎月の避難訓練を実施していく。 ○異年齢児との発達の差を考慮し，遊びの場や時間を工夫する。 ○動きが活発になるので，子どもから目を離さないようにする。 ○遊具の使い方を知らせ，安全に遊べるよう配慮する。 ○室内外に危険がないか点検･確認し，安全に過ごせる環境を整える。
子育て支援		○送迎時や連絡帳を通して園での子どもの様子を伝えたり，家庭での姿を聞いたりし，保護者との関わりを大切にしながら信頼関係を築いていく。
行事		⑤入園式　③端午の節句　⑤誕生会　④内科健診　④歯科健診
食育		○安心できる雰囲気の中で，保育者や友達と一緒に楽しく食事ができるようにする。

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

2歳児Ⅰ期　先生と一緒で楽しいな！

新しい環境に戸惑いや不安を感じる子が多いので、子どもの甘えや不安、要求を受け止め安心して過ごせるようにします。
いろいろな玩具やコーナーを用意することで、子どもが好きな遊びを見つけたり、保育者と一緒に遊びを楽しんだりしていくようになります。

春の自然を感じ取れるように、散歩や戸外へ出かけます。
草花や小動物に触れる機会を多く持つことで、「見たい」「触りたい」「知りたい」などの子どもの興味や関心が深まっていきます。

見守られたり手伝ってもらったりして、身の回りのことを自分でしようとしますが、うまく行かずに泣いたり癇癪を起こしたりする時があります。
一人一人の気持ちを丁寧に受け止めて、励ましたり、さりげなく手伝ったりしながら、自分でできたという自信が持てるようにしていきます。

❋ちょこっとエピソード❋

「自分で！」と何でも一人でやりたがるＡちゃん。一人で靴を履こうとがんばっていますが、なかなかうまくできません。だんだんとイライラし始めてきたので、保育者が手伝おうとすると「Ａちゃんが！」と援助を嫌がります。
Ａちゃんはおしゃべりが大好きで、何でもこたえてくれるとわかっていた保育者は、Ａちゃんの気持ちを落ち着かせようと、「今日の朝ごはんは何を食べたの？」と聞いてみました。

すると「おにぎり～」と答えてくれ、しばらく会話を続けると、Ａちゃんの気持ちも落ち着き、保育者が「ここぺったんできるかな？」とマジックテープを指差すと、自分でとめて、満面の笑みで「できた！」と嬉しそうでした。
一人一人の様子を把握し、子どもの意欲をそこなわないよう、ちょっとした見守り方の工夫をすることで、「できた」という経験を重ね、自信につながっていきます。

2歳児　　II期（6月～8月）

教育･保育目標		基本的な運動機能が発達し，身の回りのことを自分でしようとする。
子どもの姿		○一日の生活の流れが分かるようになり，安定した生活の中で安心して過ごせるようになってくる。 ○友達との関わりの中で，思いを通そうとしトラブルが増えてくる。 ○保育者に手伝ってもらいながら，簡単な身の回りのことをするようになる。
ねらい		○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○保育者や友達と一緒に，水や砂，泥などに触れ，夏の遊びを楽しむ。
養護	生命の保持	○衛生管理に留意して，一人一人の健康状態を把握するとともに，水分補給や休息に十分配慮する。
	情緒の安定	○子どもの気持を受け止め，感情の表出にゆったりと関わりながら心の成長を見守る。
教育及び保育（予想される活動）	健康・人間関係・環境・言葉・表現	○色々な食べ物に関心をもち，なんでも食べてみようとする。 ○保育者に誘われてトイレで排泄するようになり，パンツで過ごすことが増える。 ○オムツやパンツが濡れたときには，仕草や言葉で伝えることもある。 ○衣服の着脱ができないときは，仕草や言葉で伝え，保育者に手伝ってもらいながら自分でしようとする。 ○促されて石鹸で手を洗ったり，うがいをしたりする。 ○友達のしていることに興味をもち，見たり真似たりして，関わろうとする。 ○いろいろな素材（水，泥，泡，絵の具など）に触れて，感触を十分に楽しむ。 ○小動物や夏野菜に興味をもち，見たり触れたりする。 ○自分の思いや要求などを言葉で伝えようとする。 ○クレヨンや絵の具などで，思いのままに塗ったり描いたりする。 ○保育者や友達と一緒に季節の歌を歌ったり，音楽やリズムに合わせた体の動きを楽しんだりする。
援助のポイント（＊）	環境構成（○）と	＊生活リズムを整えながら暑い時期を健康に過ごせるよう日陰を作ったり，温度・湿度に留意したりし，水分補給，休息を十分に取れるよう配慮する。 ＊生活の様々な場面で，自分でやりたいという気持ちを大切にしながら，個人差を考慮した丁寧な対応を心掛ける。 ○一人一人の発達や興味を見極めながら，子どものしたい遊びができるように，玩具の数や種類を十分に用意する。 ＊トラブルが発生したときはそれぞれの気持ちを代弁したり見守ったり，根気よく関わり方を知らせていく。 ○いろいろな感触を十分に楽しんだり，思いのままに塗ったり描いたりできるような，素材や道具，場を用意する。 ＊保育者が楽しく遊ぶ姿を見せていくことで，いろいろな素材に興味がもてるようにし，その子なりの遊び 方を一緒に楽しみ，認めていく。 ○小動物や草花，栽培している野菜などを見たり触れたりする機会を多くもつ。 ＊一人一人の思いをじっくりと聞き，伝えきれない部分は言葉を添えるなどして思いを伝えられるようにしていく。 ＊保育者も子どもと一緒に歌を歌ったり，体をしっかり動かして遊んだりして，表現することの楽しさを共感する。
留意点	安全に関する	○災害時には子どもたちが速やかに避難できるように保育者間の連携を密にし，毎月の避難訓練を実施していく。 ○裸足で遊ぶことが多い時期なので，石拾いなど危険のないように環境を整えていく。 ○水遊びや砂遊び，プール遊びの際には子どもから目を離さず，危険のないよう職員間の役割分担を事前に確認しておく。 ○子どもの健康状態について，連絡帳や検温表でこまめに確認し，安全に楽しく水遊びができるようにする。 ○プール遊びでは，気温･水温を確認した上で水質管理を行い，入水時間に十分留意する。
子育て支援		○夏を元気に過ごすため，流行しやすい感染症や対策を伝え，健康状態をこまめに連絡しあう。・ ○自我の育ちや自己主張からのトラブルは，成長過程での必要な経験であることを伝え，必要に応じて保護者の悩み等を聞く機会をもつようにする。
行事		①②保育参観（保育参加）　①⑤給食参観　④引き渡し訓練　③七夕　②お楽しみ会（夕涼み会）　⑤誕生会
食育		○食事前に手を洗うことを促し，正しい手洗いの仕方を知らせ，習慣付けられるようにしていく。 ○夏の野菜を観察し，食材に関心をもてるようにする。

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

２歳児Ⅱ期　自分でやりたい！やってみたい！

生活の流れが分かるようになり、安心して過ごせるようになってくるので、保育者は生活の様々な場面で、子ども達の自分でやりたいという気持ちを大切にしながら、個人差を考慮した丁寧な対応を心掛けます。

「自分でできる」満足感が増えるよう、保育者が少しずつ手伝いながら、「じょうずだね」と子ども達の様子を見守っていくことで、次もやってみようとする気持ちにつながっていきます。

水・泥・絵の具など、色々な感触を楽しんだり、思いのまま塗ったり描いたりできるような素材や道具、場を用意し、子ども達と一緒に楽しみながら、気付きや発見に共感していきます。

水の冷たさや砂のざらざら感、泥のぬめりなど、様々な感触を全身で十分に味わい、楽しむ経験を通して、子どもたちは感性を豊かにしていきます。

この時期は、言葉の習得が大きく進み、自分の思いや要求を言葉で伝えようとするようになります。しかし、まだ言葉では伝えきれないことが多いので、保育者は一人一人の表情や言葉などから思いをじっくりと聞き、気持ちを受け止めながら代弁したり、言葉を補ったりします。

そうすることで、子ども達は、自分の思いを伝えられた喜びを感じ、自ら言葉を使おうとするようになります。

❋ちょこっとエピソード❋

年長児が砂場に不思議な形の溝をつくっていました。何をしているのだろうと近づく子どもたち。砂場に毎日のように足を運びじーっとみつめていました。「何をしているのか聞いてみる？」と声をかけてみると、「年長さん何つくってるの？」とたずねていました。「川だよ」と答えてくれ「川かぁ」とつぶやくＡちゃんとＢちゃん。

いよいよ完成し、水を流した川で楽しそうに遊ぶ年長児の姿をみてＡちゃんはうずうず。年長児から「入る？」と声をかけられると、Ａちゃんは嬉しそうに遊びだしました。するとすぐにＢちゃんも入り一緒に楽しんでいました。お兄さんお姉さんの遊ぶ姿に憧れ、自分もやってみたい、お友達がやったから自分もできると思ったのでしょうね。自分たちだけではできない遊びも幼児組さんがいるおかげで楽しめた一場面でした。

2歳児　　Ⅲ期（9月～12月）

教育･保育目標		基本的な運動機能が発達し，身の回りのことを自分でしようとする。
子どもの姿		○運動機能が発達し，全身を使った遊びを楽しめるようになってくる。 ○友達との遊びに必要な言葉が分かり，少しずつ言えるようになってくる。
ねらい		○伸び伸びと全身を使って遊んだり，自然に触れたりして楽しむ。 ○生活や遊びを通して，保育者や友達との関わりを楽しむ。
養護	生命の保持	○体調や気候に合わせて衣服の調節をし，快適で健康に過ごせるようにする。
	情緒の安定	○安定した関わりの中で，自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。
教育及び保育（予想される活動）	健康・人間関係・環境・言葉・表現	○スプーンやフォークの正しい持ち方を知り，自分で食べようとする。 ○尿意や便意を感じたら保育者に知らせ，トイレで排泄する。 ○保育者に見守られながら，自分で衣服や靴の着脱をしようとする。 ○手洗い，うがい（ブクブク・ガラガラ），歯みがきを自分でしようとする。 ○全身を使って遊ぶ。 ○友達との関わりの中で，保育者の仲立ちの下，相手の思いに気付き，順番を待ったり，交代したり，少しずつきまりがあることを知る。 ○散歩や戸外遊びを通して身近な自然に興味をもち，触れて遊ぶ。 ○保育者と一緒に簡単なごっこ遊びをする中で，言葉のやり取りを楽しむ。 ○様々な材料や用具を使い，自分なりに描いたりつくったりすることを楽しむ。 ○保育者を真似て，体操やダンス，リズム遊びを楽しむ。 ○簡単な物語の絵本や紙芝居を繰り返し読んでもらい，登場人物や動物など，好きなものになりきって遊ぶ。
援助のポイント（＊）	環境構成（○）と	＊生活の様々な場面で，自分でやりたいという気持ちを大切にし，手助けが必要なときはさりげなく援助し，できた喜びを感じられるようにする。 ○一人一人の発達に合わせて，いろいろな体の動き（歩く，走る，登る，跳ぶ，押す，引っ張る，ぶら下がるなど）を体験できような遊具や道具を用意する。 ＊保育者が一緒に遊びながら，体を動かすことに興味がもてるようにしていく。 ＊保育者が仲立ちとなり，自分の気持ちを伝えることや，相手の気持ちに気付くことができるように，友達との関わり方を丁寧に伝えていく。 ＊生活や遊びの中できまりがあることや，その大切さを知らせていく。 ○落ち葉や木の実の自然物を利用して手作りおもちゃを用意する。 ＊身近な自然との触れ合いの中で，子どもの発見や驚きに共感していく。 ＊話したい気持ちや思いを受け止め，共感したり言葉を補ったりして，話すことを楽しめるようにする。 ○いろいろな遊びが楽しめるように，クレヨン，水性ペン，粘土，折り紙，のりなどの材料や用具を用意する。 ＊子どもの発想や興味を見逃さず，一緒に遊びながら子どもなりの表現を認め，面白さを共有していく。
安全に関する留意点		○災害時には子どもたちが速やかに避難できるように保育者間の連携を密にし，毎月の避難訓練を実施していく。 ○運動遊具を使うときには，一人一人の発達に合わせて，危険のないよう環境を整え，挑戦する姿を見守っていく。 ○暖房器具を使うときは，温度や湿度に気を付け，換気をこまめにしていく。
子育て支援		○自己主張し友達とのトラブルもあるが，成長の過程で大切な経験であることを伝え，あたたかく見守ってもらう。 ○薄着の大切さを伝え，気温に応じて調節しやすい衣服を用意してもらう。 ○感染症の予防や対策について園だよりなどで知らせ，手洗いやうがいなど清潔について習慣付けることの大切さを伝える。
行事		⑤遠足　①運動会　⑤いもほり　③お月見　④内科健診　④歯科健診　④はみがき教室　⑤クリスマス会 ③餅つき会　⑤誕生会
食育		○心地よい空腹感が得られるよう活動を工夫する。

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

2歳児Ⅲ期　まねっこだいすき！

運動機能が発達し、全身を使った遊びを楽しめるようになってくるので、保育者は一人一人の発達に合わせて危険のないように環境を整え、挑戦する姿を見守り、必要に応じて手助けをしていきます。

イメージと結びついた動きを楽しむ中で、自分の体を自分で動かす喜びを高めていきます。

いろいろな動きができるようになってくるので、幼児組さんと同じ遊具や用具を使ったり、同じ遊びをやってみようとする姿が多く見られます。

時には年長児と一緒に散歩に出かけ、年長さんを真似ていつもは入っていけない林の中の探索を楽しみます。

戸外遊びや散歩に出かけると、子ども達は旺盛な探索意欲を発揮し、興味をひかれたものへ自分から近づき、見たり触れたりする中で様々な発見をします。保育者は、子どもの発見や驚きに共感し、興味や関心の幅を広げていきます。

子ども達は様々な体験を通して、自分なりに考えたり、試したりして、生活や遊びに取り入れながら遊びを豊かにしていきます。

この時期になると友達の遊びに興味を持ち、見たり真似たりして関わろうとする姿が見られ、子ども同士の遊びにも少しずつ変化が生まれてきます。関わりが増えてくると、気持ちをぶつけあうこともあります。保育者が仲立ちとなり、自分の気持ちを伝えることや、相手の気持ちに気づくことができるように、友達との関わり方を丁寧に知らせていきます。

友達と一緒に楽しさを共有することで、人とのつながりを深めていきます。

「どうしたの？」
「二人とも使いたかったんだよね」
「今は〇〇ちゃんが使ってるから、貸してほしいときは『かして』って言おうね。」

❋ちょこっとエピソード❋

サンドイッチの絵本が大好きで、ページをめくってはパクパクと食べる真似をしています。そんな様子から、サンドイッチを作れるように、スポンジや色々な形のフェルトを用意してみることに･･･。「パンだ～！」と早速手に取り、「レタスをいれて～」「ハムいれて～」と絵本と同じように作りはじめました。それだけでなく、「サンドイッチで～す」「く～だ～さい」と友達とのやり取りを楽しむ様子が見られました。

子どもの興味、関心を見逃さずに、一緒に遊びながら子どもなりの表現を認め、面白さを共有していきます。

2歳児　　Ⅳ期（1月～3月）

教育･保育目標		基本的な運動機能が発達し，身の回りのことを自分でしようとする。
子どもの姿		○一人でできることが増え，進級への期待をもって生活するようになる。 ○友達との関わりが多くなり，一緒に行動したり同じ遊びをしたりすることを楽しめるようになってくる。
ねらい		○生活に必要な身の回りのことを自分でしようとする。 ○ごっこ遊びや簡単なルールのある遊びを通して，友達と遊ぶことを楽しむ。
養護	生命の保持	○基本的生活習慣の自立に向けて，一人一人に応じた援助をする。
	情緒の安定	○様々な場面で表れる自我の育ちを丁寧に受け止め，見守っていく。
教育及び保育（予想される活動）	健康・人間関係・環境・言葉・表現	○生活や遊びの中で，自分でできることに喜びを感じ，身の回りのことを進んでしようとする。 ○走ったり，運動遊具を使ったりして，十分に体を動かして遊ぶ。 ○簡単なルールを知り，保育者や友達と楽しく遊ぶ。 ○友達と同じ遊びをして楽しむ。 ○異年齢の友達との関わりを楽しむ。 ○冬の自然事象に興味や関心をもち，触れて遊ぶ。 ○自分の思いや経験したことを表情や簡単な言葉で伝えようとしたり，言葉でのやり取りを楽しんだりする。 ○様々な素材や用具を使い，描いたり，作ったりすることを楽しむ。 ○生活や遊びの中での経験を通して，イメージをもち，ごっこ遊びを楽しむ。 ○保育者や友達と一緒に季節の歌を歌ったり，好きな曲に合わせて踊ったりすることを楽しむ。 ○いろいろな音の出る玩具に触れて遊ぶ。
援助のポイント（＊）	環境構成（○）と	＊一人一人の発達に応じた援助をし，できたことを褒め，自分でできることの喜びを感じ，自信を持てるようにしていく。 ＊寒い時期なので，戸外に出たときには一人一人に声掛けし，体が温まるような活動に誘い，けが無く体を動かせるようにする。 ＊簡単なルールのある遊びを取り入れ，分かりやすくルールを知らせながら，友達と一緒に楽しめるようにしていく。 ＊進級に向けて異年齢児と遊ぶ機会をもち，仲立ちして楽しく遊べるようにする。 ○保育者と一緒に氷づくりをしたり，霜柱を探したりし，冬の自然に触れながら遊ぶ環境を整える。 ＊子どもの言葉に耳を傾け，しっかりと向き合い，相槌を打ったり一緒に考えたり，共感したりして，やり取りを楽しめるようにする。 ○子どもたちの興味や関心に合わせ，イメージを広げられるような素材や用具を用意しておく。 ＊保育者や友達と表現する楽しさが味わえるように，一緒に歌を歌ったり，体を動かしたりしていく。
留意点	安全に関する	○災害時には子どもたちが速やかに避難できるように保育者間の連携を密にし，毎月の避難訓練を実施する。 ○運動遊具を使うときには，一人一人の発達に合わせて，危険のないよう環境を整え，挑戦する姿を見守っていく。 ○暖房器具を使うときは，温度や湿度に気を付け，換気をこまめにする。 ○風邪が流行する時期なので，室内の換気を十分に行い，手洗い・うがいを促したり，見守ったりし，一人一人の体調管理に留意する。
子育て支援		○一人一人の成長発達の違いを把握し，保護者の不安や戸惑いを受け止め，丁寧に対応しながら一年を振り返っての・成長を喜び合う。 ○感染症の予防や対策について園だよりなどで知らせ，手洗いやうがいなど清潔について習慣付けることの大切さを伝える。
行事		⑤誕生会　③節分　③ひな祭り　①発表会　⑤お別れ会
食育		○食事のためのマナーが身に付くように個別に援助する。

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

2歳児Ⅳ期　　もうすぐ幼児組さん！

2歳児にとって、「幼児組になる」ことは大きな節目となります。子どもをとりまく環境が大きく変わることで、進級に対し不安にならないように、幼児組で少しずつ生活を共にしたり、一緒に遊んだりする中で、楽しさを経験できるようにしていきます。

保育者の援助に加え、幼児からの刺激を受けながら身の回りのことを進んでしようとし、進級への期待を持って過ごすようになります。

友達との関わりが増え、一緒に行動したり、同じ遊びをしたりすることが楽しめるようになり、ごっこ遊びや簡単なルールのある遊びを通して、自分の思いを表情や簡単な言葉で伝え、友達の話を聞こうとします。

保育者等と一緒に遊んだり、言葉のやりとりをしたりする経験を通して、言葉で伝え合うことの喜びや、言葉により心を通わせる楽しさを味わうことで、話したり聞いたりする態度が育まれていきます。

寒い時期でも、子ども達は「外で遊ぶ!」と屋外での活動が更に活発になり、自分から冬の自然事象に興味を持ち、霜柱や氷を探したり、触ったり、保育者と一緒に氷づくりをしたり、旺盛な好奇心を発揮します。

子どもが好奇心をもって遊ぶ姿を認め、一緒に共感しながら、探求するための十分な時間と場を確保することで、豊かに遊びが展開されるようになります。

❋ちょこっとエピソード❋

進級に向けて、少しずつ幼児組の生活の流れ、環境になれるように取り組んでいたある日、幼児組の部屋の前でAくんがたちすくんでいました。「どうしたの？」と聞いてもなかなか答えてくれません。そこで、保育者は、Aくんの気持ちを汲み取り、2歳児の部屋にいき、Aくんの大好きな恐竜のおもちゃで一緒に遊び、楽しい時間を過ごすようにすると、「たんぽぽ（2歳児クラス）がいい･･･」と、自分の思いを伝えてくれました。「恐竜のおもちゃを幼児組さんに持っていこうか？」と言うと、気持ちも切り替わり、自分で持って幼児組の部屋に入室することができました。様々な場面で表れる自我の育ちを丁寧に受け止めた瞬間でした。

進級に向けて子どもが不安にならないよう、一人一人のそれまでの経験や発達の状態を職員間で共有し、関わり方が大きく変わらないようにしていくことが大切です。

（５）３歳児
年間カリキュラム

≪子どもの教育及び保育目標≫

基本的な生活習慣を身に付け、保育者や
友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。

3歳児　　１期（4月～5月）

教育･保育目標		基本的な生活習慣を身に付け，保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
生命の保持と情緒の安定		○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え，自分でやり通そうとするなど自分の意志で生活しようとする気持ちを認め，成功体験を積み重ねていけるようにする。
子どもの姿		○進級児は環境の変化に不安になったり，新入園児は保護者と離れることへの不安から，泣いたりする姿が見られる。 ○保育者のしている遊びや遊具に興味をもち，自分の好きな遊びやしたい遊びを見付けて遊ぶようになる。 ○自分の保育室やマーク，担任や友達の名前を覚えるようになり，回りのことにも興味が広がりはじめる。
ねらい		○保育者に親しみをもち，喜んで登園する。 ○園生活の流れを知り，園の生活リズムに慣れる。 ○自分の好きな遊びや安心できる場を見付け，遊ぼうとする。
教育及び保育（予想される活動）	健康・人間関係・環境・言葉・表現	○新しい環境に慣れ，基本的な生活の仕方を知り，保育者と一緒にしようとする。（食事，排泄，手洗い，着脱，所持品の始末など） ○自分のクラスが分かり，担任や友達を覚え，親しみをもつ。 ○保育室や園庭に慣れ，自分のしたい遊びや好きな場所を見付けて，安心して過ごす。 ○身近な小動物や草花などを，見たり触れたりする。 ○したいこと，してほしいことを保育者に仕草や言葉などいろいろな方法で伝えようとする。 ○みんなで一緒に保育者の話や絵本などを見たり，聞いたりすることを楽しむ。 ○知っている歌を歌ったり，簡単な手遊びを喜んでしたりする。
援助のポイント（＊）	環境構成（○）と	○自分の場所という安心感がもてるよう，くつ箱・ロッカー等の個人の持ち物を置く所には，個人のマークをつける。 ＊着替え，排泄等は，個人差が大きいので，一人一人の様子に応じて援助し，自分でやろうとする気持ちを育てていく。 ＊保育者と一緒に遊ぶ楽しさや，いろいろな遊びに気付かせることで，明日も遊びたいという気持ちをもてるようにする。 ＊個人差に配慮しながら，一人一人の気持ちをしっかりと受け止め，安心して過ごせるように，子どもとの信頼関係を築く。 ○親しみやすい遊具を用意し，興味をもった遊びを一人一人が十分にできるように，遊具の数や置き方に配慮する。
留意点	安全に関する	○子どもたちが安全に過ごせるように，園舎内や園庭での約束やきまりについて保育者間で共通理解を図り，連携がとれるようにしておく。 ○遊具の安全な使い方を分かりやすく表示したり，活動前に話したり，実際の場面を捉えて繰り返し伝えていく。
子育て支援		○保護者が安心して園児を園に送り出せるよう，送迎の際に一人一人の園での様子を詳しく伝えたり，おたよりや掲示物で園全体の様子が分かるようにしたりする。 ○家庭での様子や保護者の思いを受け止め，信頼関係を築き，相談しやすい雰囲気を作る。
行事		⑤始業式　⑤入園式　③端午の節句　⑤誕生会　④内科健診　④歯科健診
食育		○新しい園生活の中で食事をすることに慣れる。 ○楽しい雰囲気の中で食事をしようとする気持ちをもつ。

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

3歳児Ⅰ期　幼稚園・保育所って楽しいな!

環境の変化で不安になる姿が見られるので、一人一人に温かく声を掛け、気持ちに寄り添いながら、子どもとの信頼関係を築きます。

安心して過ごせるようになると、みんなで一緒に保育者の話を聞いたり、絵本や手遊びなどを楽しんだりするようになります。

≪新入園児≫

自分の場所という安心感がもてるよう、くつ箱・ロッカー等の個人の持物を置くところには、個人のマークをつけます。

一人一人の様子に応じて援助したり、保育者が一緒に行ったりすることで、自分でやろうとする気持ちが育ちます。

≪進級児≫

3歳児クラスになり、トイレや午睡の場など様々な環境が変わってきます。進級を喜んでいる子もいれば不安な子どももいます。

一人一人の表情や仕草を見逃さず、その都度使い方などを知らせたり、そばについて見守ったりしていきます。

子ども達の興味や発達にあった遊具を用意し、好きな遊びが見つけられるようにします。

保育者も一緒に遊びながら、いろいろな遊びに気付かせることで、自分の好きな遊びやしたい遊びを見つけられるようになります。

❀ちょこっとエピソード❀

入園して１週間、年長児と一緒に園庭めぐりをしました。初めての園生活で、年長児と手をつなぐことにもどきどきのＡくん。そんな気持ちを受け止め、保育者と一緒に最後尾からついて行きました。「滑り台楽しそうだね」「一緒にやってみようね」。保育者の存在が心のよりどころになることで、Ａくんは徐々に保育者のそばを離れても安心して過ごすようになっていきました。不安だった新しい生活も保育者との温かいつながりによって明日も楽しみに登園できる生活になっていくのです。

3歳児　　II期（6月～8月）

教育･保育目標	基本的な生活習慣を身に付け，保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
生命の保持と情緒の安定	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え，自分でやり通そうとするなど自分の意志で生活しようとする気持ちを認め，成功体験を積み重ねていけるようにする。
子どもの姿	○園での生活の仕方が分かり始め，毎日すること（排泄・片付け・身支度など）は，自分でしようとする子も見られるが，まだ個別の援助 を必要とする子もいる。 ○一人一人が自己主張するようになり，物の取り合いをめぐって，友達とぶつかり合うことが多くなる。 ○好きな遊びを見付けられるようになってくる。 ○園生活に慣れ，行動範囲が広がってくる。
ねらい	○園での生活の仕方が分かり，身の回りの始末を自分でしようとする。 ○自分の好きな遊びを十分に楽しみながら，友達のしていることにも興味を示す。 ○水や砂の感触を楽しみながら，夏ならではの遊びに興味をもつ。
教育及び保育（予想される活動） 健康・人間関係・環境・言葉・表現	○食事，排泄，手洗い，着脱，所持品の始末など，自分でしようとしたり，できないことを保育者に伝えたりしようとする。 ○固定遊具を使ったり，走ったりして，体を動かして遊ぶ。 ○友達のすることを見たり，真似たりしながら，一緒に遊ぼうとする。 ○物の取り合いなどの友達とのトラブルの中で，保育者の仲立ちで自分の思いを伝えようとする。 ○水遊び，泥遊び，砂遊び，プール遊びなど，解放感が味わえる遊びを楽しむ。 ○自分の経験したことや思いを，保育者や友達に話そうとする。 ○身近にあるもので，好きなように描いたり作ったりして表現する楽しさを感じる。
援助のポイント（＊） 環境構成（○）と	＊生活に必要な習慣は，自分でしようとする気持ちを大切にし，認めて自信をもてるようにしていく。 ○子どもの興味を捉えて楽しめるような材料や用具，時間や場，遊具の数に配慮し，やりたい時にできるように置き方を工夫していく。 ＊一人一人のペースを大切にし，「面白そう」「やってみたい」という気持ちがもてるようにしていく。 ＊物の取り合いなどのトラブルが出てくるので，互いの気持ちを受け止めたり，代弁したりして，状況に応じて対応していく。 ○水に親しみをもち，水遊びの楽しさが感じられるように，いろいろな遊びを用意し，参加できるようにしていく。
安全に関する留意点	○暑さを考慮し，適度な水分補給と，休息を十分に取れるような配慮をする。 ○泥，水，プール遊びなど，裸足で遊ぶことが多い時期なので，園庭やプールサイドの整備をし，危険のないよう環境を整えておく。 ○プール・泥遊びをするときには，安全に遊べるようにその都度約束事を知らせていく。 ○水遊びをする前には，プールカードだけでなく，保育者が一人一人の健康状態を十分に見極めるようにしていく。 ○プール遊びの際は，子どもと一緒に入水する人，周りで見守る人を配置する。
子育て支援	○友達とのトラブルは，相手の存在や気持ちに気付くために必要な経験であることを伝え，保護者の不安な思いを受け止め，解決への道筋を丁寧に知らせながら安心して見守ってもらえるようにする。 ○夏は体力を消耗しやすいので，朝ごはんや睡眠の大切さ，夏の感染症について伝え，健康に過ごせるよう家庭との連携を図る。
行事	①②保育参観（保育参加）　①⑤給食参観　④引き渡し訓練　③七夕　②お楽しみ会（夕涼み会） ⑤誕生会　⑤終業式　④はみがき教室
食育	○苦手なものでも少しずつ食べようとする。 ○楽しい雰囲気の中で食事をしようとする気持ちをもつ。 ○自分たちで育てた野菜に興味をもつ。

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

3歳児Ⅱ期　あれなあに？ やってみた～い！

園での生活の仕方が分かり始め、食事、排泄、手洗い、着脱、所持品の始末など、少しずつ自分でしようとする気持ちが芽生えてきます。まだ個人差が大きい時期なので、一人一人に合わせた援助をし、子どもの自分でやろうとする姿を認めていきます。

小さな「できた！」の積み重ねが、自分でできたという自信や、次もやってみようかなという意欲につながっていきます。

一人一人が自己主張するようになってくるので、相手と同じものが欲しくなったり、使いたくなったりと、友達とぶつかり合うことが多くなります。

友達とのぶつかり合いは、相手の存在や気持ちに気付くための必要な経験なので、保育者が丁寧に関わりながら必要な言葉などを知らせていきます。

夏ならではの遊びの楽しさが感じられるように、水に親しみをもてるようにする等、いろいろな遊びを用意していきます。

保育者と一緒に触れたり、友達の様子を真似たりしながら、全身で解放感や感触の心地よさを味わえるようになります。

保育者も一緒に感触を楽しみます

❋ちょこっとエピソード❋

広告紙の衣装を身に付けたＡちゃんに刺激を受けたＢちゃん。「私もスカートがほしい」と保育者の元へ。保育者はＢちゃんの気持ちを受け止め、同じ材料を用意しました。自分で作り始めたＢちゃん。

同じものを身に付けたことで「Ａちゃんと一緒！嬉しいな♪」と満足した様子でした。さらに遊びの刺激はＣちゃんへと…。

友達のしていることに興味をもち、見たり真似たりしながら、友達とのつながりや遊びが広がり、子ども同士の遊びの中で響き合う姿が見られるようになります。

3歳児　　Ⅲ期（9月～12月）

教育･保育目標	基本的な生活習慣を身に付け，保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
生命の保持と情緒の安定	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え，自分でやり通そうとするなど自分の意志で生活しようとする気持ちを認め，成功体験を積み重ねていけるようにする。
子どもの姿	○夏休みの後は，園生活のリズムがくずれたり，不安になって泣いたりする子もいる。（短） ○身の回りの始末などの基本的生活習慣を自分でしようとするが，まだ個人差が大きい。 ○行動や遊びが活発になり，体を動かして楽しく遊ぶ姿が見られる。 ○ごっこ遊びなど，同じ遊びをすることを楽しむが，自分の思いを通そうとして，トラブルが起きることもある。
ねらい	○日常生活の中で自分でできることは進んでしようとする。 ○保育者や友達と一緒に戸外で体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ○保育者や友達との関わりに心地よさを感じながら，自分のしたい遊びを楽しむ。
教育及び保育（予想される活動） 健康・人間関係・環境・言葉・表現	○自分でできたことを喜び，簡単な身の回りのことをしようとする。 ○友達や保育者と走ったり，思い切り体を動かしたりすることを楽しむ。 ○年中児や年長児と触れ合い，楽しさを共に感じたり，あこがれを感じたりする。 ○遊びの中で，友達とのやり取りを楽しみながら，生活に必要な言葉を知っていく。 ○身近な自然に親しみ，触れたり遊んだりする。 ○身近なものや遊具に興味をもって関わり，繰り返し遊ぶ。 ○見たこと，知っていること，面白いことなどを保育者や友達に話したり，受け止めてもらえたりする喜びを 感じる。 ○自分なりの表現でリズム遊びを楽しむ。 ○いろいろなものになりきって遊ぶことを楽しむ。
環境構成（○）と援助のポイント（＊）	＊自分からやってみようという気持ちを認めて励ましたり，難しいときには手を貸したりしながらも，やる気を引き出し，満足感が味わえるように関わる。 ＊保育者は，遊びの一員として加わり，子ども同士の会話をつなげたり，いろいろな遊び方を知らせたりし て，友達と遊ぶ楽しさが味わえるよう援助していく。 ○運動会などで，いろいろな運動遊びを取り入れて，戸外で伸び伸びと体を動かすことを楽しめるようにする。 ○異年齢児との交流は，保育者間で共通理解をし，連携を取りながら，自然な形でできるように環境を整えていく。 ○遊びの中で落ち葉や木の実などを取り入れ，子どもたちが身近に触れられるような環境を整えていく。 また，戸外でも自然の中で季節を感じられるようにしていく。 ＊友達とのトラブルでは，それぞれの思いを十分受け止めた対応をし，相手の存在や思いに気付いていけるよう援助する。 ＊一人一人の子どもの表情や身振りや言葉など，子どもの姿から気持ちを感じ取り，必要に応じた援助をする。 ＊様々な遊びや環境に関心をもって自分から関わろうとする姿を大切に受け止め，保育者も一緒に関わる。
安全に関する留意点	○遊びに取り組むときには，用具の点検をしておき，安全に遊べるようにする。また，一つ一つの遊びの場が重ならないように工夫し，安全に遊びが展開できるようにルールがあることを伝えていく。 ○園外保育では，事前に道路の歩き方・バスの乗り方の約束を知らせていく。 ○暖房器具がついている時の室内の過ごし方について，約束などを伝えていく。また，温度や湿度に気を付け，換気をこまめにする。 ○はさみの使い方に関しては個人差があると思われるので，安全に配慮し，扱い方などを個別に知らせていく。
子育て支援	○家庭との連携を密に一人一人の様子を見ながら，生活のリズムを取り戻せるよう配慮していく。 ○運動会等の行事を通して子どもの育ちやクラスの変化を保護者に伝え，その事を踏まえ一人一人のよさや成長した姿を理解しあう。 ○感染症の予防や対策について園だよりなどで知らせ，家庭でも手洗い・うがいの大切さを話してもらい，健康に過ごせるように家庭での管理をお願いする。
行　事	⑤始業式　⑤遠足　①運動会　⑤いもほり　③お月見　④内科健診　④歯科健診　④はみがき教室 ⑤クリスマス会　③餅つき会　⑤誕生会　⑤終業式
食　育	○体を動かして思い切り遊び，空腹を感じて，進んで食べようとする。

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

3歳児Ⅲ期　先生や友達といっしょ　うれしい 楽しい 大好き♥

多様な動き（走る、跳ぶ、ぶら下がる、引っ張る、投げる、くぐる等）の体験を楽しめるようになる時期です。戸外で伸び伸びと体を動かして遊ぶ時間を十分確保し、体を動かす楽しさや心地よさを感じられるようにしていきます。

体を動かして遊ぶことが好きな子や苦手な子、経験の有無など個人差が大きいので、保育者が関わりながらやってみようとする気持ちを認めたり、できるようにさりげなく手を貸したりすることで、満足感や次への意欲がもてるようになります。

異年齢児や友達のしていることを見て、吸収したり真似たりすることで、遊びやイメージがふくらむようになります。

遊びの中で落ち葉や木の実など身近なものを取り入れ、子ども達が直接触れられるように環境を整えていきます。

身近な秋の自然に触れたり遊んだりする機会を多くもち、子ども達の小さな気付きに共感していくことで、自然に興味が持てるようになります。

保育者は、遊びの一員として加わり、子ども同士の会話をつなげたり、いろいろな遊び方を知らせたりして、友達と遊ぶ楽しさが味わえるよう援助していきます。

保育者や友達との関わりに心地よさを感じながら、自分のしたい遊びを楽しめるようになります。
また、その中で、友達とのやり取りを楽しんだり、生活に必要な言葉を知ったりしていきます。

❋ちょこっとエピソード❋

4 歳児のかくれんぼにまぜてもらい、一緒に「もういいかい？」「まあだだよ！」の言葉のやりとりを楽しみながら遊んでいた子ども達。みんなで同じ家の中へかくれて鬼が見つけにくるのを待っていました。かくれんぼをしている途中でしたが、友達とくっついていることが嬉しくなってきて、みんなで抱き合って、ギュー‼「大好き～❤」「面白いね！」の声が聞こえてきました。

友達に目を向けられるようになると、人と関わる心地よさを感じられるようになり、「〇〇ちゃんと一緒にして楽しかった」という友達とのつながりが深まっていきます。

3歳児　　Ⅳ期（1月～3月）

教育･保育目標		基本的な生活習慣を身に付け，保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
生命の保持と情緒の安定		○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え，自分でやり通そうとするなど自分の意志で生活しようとする気持ちを認め，成功体験を積み重ねていけるようにする。
子どもの姿		○年中，年長児の遊びに興味をもち，簡単なゲーム遊びや集団遊びの仲間に入れてもらったり，自分達で真似して遊ぼうとしたりする。 ○進級への期待をもち，自分でできることは，自分なりに進めようとする。
ねらい		○基本的生活習慣が身に付き，進級を楽しみに自信をもって伸び伸びと行動する。 ○自分の思いを出しながら気の合う友達と遊ぶことを楽しむ。
教育及び保育（予想される活動）	健康・人間関係・環境・言葉・表現	○手洗い，うがい，着脱，排泄，片付けなどの手順や意味を理解し，見通しをもって自分からしようとする。 ○寒さに負けず十分に体を動かして戸外遊びを楽しむ。 ○分かりやすいルールのある遊びを，保育者や友達とすることを楽しむ。 ○年長児や年中児の遊びに参加したり，年下の子どもたちと触れ合ったりして楽しむ。 ○冬の自然を見たり触れたり体で感じたりする。 ○身近な材料を使って自分が欲しいものをつくったり，できたものを遊びに使ったりする。 ○自分の思ったことや感じたこと，経験したことなどを，保育者や友達に自分なりの言葉で伝える。 ○歌ったり，体を動かしたり，楽器を鳴らしたりすることを楽しむ。
援助のポイント（＊）	環境構成（○）と	○寒い時期なので，体を使った遊びを多く取り入れるようにする。 ＊大勢でできる簡単なルールのある遊びを積極的に取り入れ，保育者も仲間に入って，楽しく遊べるよう援助していく。 ○集団で活動する楽しさ・面白さを経験できる機会をもつ。 ＊冬の自然に触れる機会を逃さず，子どもたちの驚きや発見，つぶやきなどに耳を傾け，共感していく。 ＊お別れ会や卒園式，年中･年長児との関わりを通して，進級に期待がもてるようにしていく。 ＊一年を通してできるようになったことやがんばったことを認め，自信につなげていく。 ○遊びが発展し，継続していくように遊具や材料などの種類や配置を考え，それぞれの遊びの環境を整える。
安全に関する留意点		○風邪が流行する時期なので，室内の換気を十分に行い，手洗い・うがいを促したり，見守ったりし，一人一人の体調管理に留意する。 ○暖房器具がついている時の室内の過ごし方について，子どもと一緒に約束を確認していく。また，温度や湿度に気を付け，換気をこまめにしていく。
子育て支援		○一年間の子どもの成長を保護者に伝え，その成長を実感できる場面をつくり共感していく。・ ○感染症の予防や対策について園だよりなどで知らせ，家庭でも手洗い・うがいの大切さを話してもらい，健康に・過ごせるように家庭での健康管理をお願いする。
行事		⑤始業式　⑤誕生会　③節分　③ひな祭り　①発表会　⑤お別れ会　①卒園式　⑤修了式
食育		○友達と一緒に食べる楽しさを知る。 ○食事のマナーに気を付けて食べようとする。

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

３歳児Ⅳ期　自分でできるよ　大きくなったもん♪

大勢でできる簡単なルールのある遊びを積極的に取り入れ、保育者も仲間に入って、楽しく遊べるよう援助していきます。

簡単なルールのある遊びをする中で、勝ち負けを経験することで、嬉しい気持ちや悔しい気持ちを知り、次第に集団で遊ぶ楽しさ・面白さを感じられるようになります。

わらべうた遊びなど、子ども同士響き合う遊びを取り入れていきます。

子どもの興味にあった材料や扱いやすい素材を用意したり、自分のつくりたいものを実現できるように、一緒に考えたり、つくったりしていきます。

つくったものを使って友達と遊ぶ楽しさを感じ、少しずつイメージを共有したり、継続して遊んだりするようになります。

身の回りの始末の手順や意味を理解し、見通しをもって自分からしようとしたり、年下の友達の世話を進んでしようとしたりする気持ちが育ってきます。

一人一人のできるようになったことやがんばったことを認め、自信がもてるようにしていきます。

❋ちょこっとエピソード❋

戸外遊び中、１歳児が入室する様子を見ていたＡちゃんとＢちゃん。まだ遊んでいた１歳児のＣちゃんに声をかけると、手をつないで部屋の入口へ。靴を脱ぐために座ったＣちゃんに「脱げる？」と聞くと何も言わずじっと顔を見ていました。すると、２人は片足ずつ靴を脱がせてあげました。後から来た１歳児のＤくんは自分で靴を脱ぎ始めたので、じっと見守っている２人。Ｄくんは得意げに靴下まで。するとＡちゃんとＢちゃんは、「パチパチパチ…」「上手！」と、自然にＤくんを認めるような行動と言葉がでていました。

日頃から異年齢で関わり、今まで自分が年上の友達や保育者にしてもらってきたことの経験が、３歳児なりに相手の気持ちに気付き、状況に合わせて手助けしたり、待ったりと、さりげなく年下の友達に関われた瞬間でした。このような日々のちょっとした成長している姿を見逃さないようにしたいですね。

（６）４歳児
年間カリキュラム

≪子どもの教育及び保育目標≫

友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。

4歳児　　Ⅰ期(4月～5月)

教育･保育目標	友達との関わりを深めながら，いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
生命の保持と情緒の安定	○運動量が増し，活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し，自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。
子どもの姿	○進級に喜びを感じる子や，新しい環境に不安や緊張を感じる子もいる。 ○園生活のおおよその流れが分かり，自分でできることは自分でしようとするが，気持ちの向かない子もいる等個人差が見られる。 ○自分の好きな遊びを見付けて遊ぶ姿が見られる。
ねらい	○進級した喜びを味わい，新しい環境での生活に慣れ安心して過ごす。 ○保育者や友達と関わり，好きな遊びを楽しむ。
教育及び保育（予想される活動）　健康・人間関係・環境・言葉・表現	○保育者や友達に親しみをもち，一緒に過ごしたり遊んだりする。 ○生活の仕方や身の回りの始末の仕方を確かめながら，自分でできる事は自分でしようとする。 ○園生活でのきまりや約束を知り，守ろうとする。 ○友達のしている遊びに興味をもって参加したり，同じ物を使って遊んだりする。 ○身近な遊具や用具などの扱い方を知り，それを使って遊ぶことを楽しむ。 ○身近な自然に興味をもち，見たり触れたりして遊ぼうとする。 ○したいことや困ったことなどを，保育者に仕草や言葉など自分なりの方法で伝えようとする。 ○保育者や友達と一緒に歌を歌ったり，手遊びをしたりして楽しさを感じる。
援助のポイント（＊）　環境構成（○）と	＊身の回りの始末の仕方や，園生活のきまりを子どもたちと一緒に確認し，一人一人の経験の違いを考慮した援助をしていく。 ○すぐに遊びだせるような遊びのコーナーや遊具を設定することで，好きな遊びが見付けられるようにする。 ＊保育者が積極的に遊びに加わり，遊びの楽しさを感じられるようにする。 ＊友達の遊びの様子や楽しんでいることなどをまわりの子どもに伝え，関わりがもてるようにしていく。 ○草花を見たり虫を探して触れたり，保育者も関わりながら自然に親しみをもち，遊びに取り入れていけるようにする。 ＊環境を整え，落ち着いて話を聞く大切さを伝える。 ＊仕草や言葉から伝えようとしている気持ちを汲み取り，じっくりと関わっていく。
安全に関する留意点	○子どもたちが安全に過ごせるように，園舎内や園庭での約束・きまりについて，保育者間で共通理解を 図り，連携がとれるようにしておく。 ○安全に遊べるよう，遊具と用具の点検と整備を十分にする。 ○新しい環境になり，気持ちが落ち着かない姿も見られるので，子どもたちの様子や状況に合わせて，安全な遊び方をその都度伝えていくようにする。
子育て支援	○送迎の際に一人一人の園での様子を詳しく伝えたり，おたよりや掲示物で園全体の様子が分かるようにしたりする。 ○家庭との信頼関係を築き，子どもの成長を支えあう事ができるようにしていく。
行事	⑤始業式　⑤入園式　③端午の節句　⑤誕生会　④内科健診　④歯科健診
食育	○食事の仕方や流れを知り，みんなで楽しく食事をする。

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

4歳児Ⅰ期　おもしろそう やってみようかな?

進級・入園により、新しい環境になった喜びを感じる子もいますが、不安を表す子もいるので、自分から遊びだせるようにいくつかの遊具を準備し、自分で選んで遊べるようにしておきます。

↓

自分の居場所を見付け、安心感を感じることで、新しい遊びに向かうことができるようになります。

基本的な生活習慣は、個人差が大きいので自分でやろうとする気持ちがもてるよう、環境や仕掛け作りの工夫をし、一緒に行ったり見守ったりしていきます。

↓

自分でできるという自信につながり、色々なことをやってみようとする気持ちが育ちます。

「やってみたいけど・・・」という思いを抱きながら、なかなか遊びに入れない子もいるので、保育者も仲間となり、一緒に遊んでいくことで、やってみようとするきっかけを作っていきます。

↓

友だちと一緒が楽しいと思うことで、遊びや友だちとの関わりがより広がっていきます。

❋ちょこっとエピソード❋

雨上がりの園庭で、虫を探してた子どもたちが、穴を発見しました。すると「何がいるんだろう」「よく見えないね」というつぶやきが聞こえてきました。

そこで、翌日、保育者は虫眼鏡とペンライトを用意し、「こんなのもあるよ」とさりげなく出しました。

子どもたちは「なにそれ～」「つかいたい！」と、虫眼鏡とペンライトを手に取ると、まっしぐらに穴に向かい、「見える見える！」と、探究心が満たされて、とても満足した様子でした。

子ども達の感じた不思議さや驚き、発見を見逃さないようにしていきたいですね。

4歳児　　Ⅱ期（6月～8月）

教育･保育目標	友達との関わりを深めながら，いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
生命の保持と情緒の安定	○運動量が増し，活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し，自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。
子どもの姿	○活動範囲が広がり友達への関心が高まってくるようになる。 ○友達との関わりが増えてくるが，接し方が分からずにトラブルになることも多い。 ○自分の思いが言葉でうまく表現できず，泣いたり怒ったりすることがある。 ○身の回りのことは自分でするようになるが，手助けを求める子もいる。
ねらい	○友達と関わり合いながら，一緒に遊ぶことを楽しむ。 ○自分でできることに喜びを感じながら行動する。 ○梅雨期や夏の過ごし方を知り，季節感のある遊びを十分に楽しむ。
教育及び保育（予想される活動） 健康・人間関係・環境・言葉・表現	○梅雨期や夏を健康に過ごすために必要な生活の仕方を知る。 ○生活の流れや身の回りの始末の仕方が分かり，自ら行う。 ○友達に親しみをもち，同じことをしたり関わったりして遊ぶ。 ○保育者や友達と一緒に砂，水，泥などの感触を全身で楽しみながら解放感を味わう。 ○したいことやしてほしいこと，思ったことなどを保育者や友達に言葉で伝える。 ○身近にあるいろいろな素材や用具に親しみ，かいたり，つくったりすることを楽しむ。
環境構成（○）と援助のポイント（＊）	＊梅雨期･夏期の衛生面に留意し，活動の時間や流れ，場の工夫をしながら健康に過ごせるようにする。 ＊自分で行う姿を認めたり励ましたりすることで，できたことに喜びや満足感をもてるようにしていく。 ＊保育者が仲立ちとなり，友達の存在や動きに関心がもてるようにし，遊びの楽しさを知らせていく。 ○水遊び，砂遊びは，進んで取り組むことができるように，子どもの興味がもてるような環境を整えておく。 ＊場面を捉えて，遊びに必要な言葉や気持ちの伝え方を知らせていく。 ○子どものつくりたいものが実現できるよう，材料や用具を用意する。素材は子どもが扱いやすい大きさや種類を用意し，自由に使えるようコーナー等に分類しておく。 ＊つくることの楽しさや，つくったもので遊ぶ楽しさを味わえるよう，保育者が子どもと一緒に遊び，楽しさを共感していく。
安全に関する留意点	○水分の補給，汗の始末，着替えなど，一人一人の様子を把握して，自分でできるように促す。 ○泥，水，プール遊びなど，裸足で遊ぶことが多い時期なので，園庭やプールサイドの整備をし，危険のないよう環境を整えておく。また，園庭の石拾い等を子どもたちと一緒に行い，自ら安全に気を付けられるようにしていく。 ○プール遊びをするときには，安全に遊べるように約束事を確認し，水の危険性について知らせていく。 ○プール遊びをする前には，プールカードの確認だけでなく，保育者が一人一人の健康状態を十分に見極めるようにしていく。 ○プール遊びの際は，子どもと一緒に入水する人，周りで見守る人を配置する。
子育て支援	○友達とのトラブルは，発達の自然な姿で，成長の機会であることを保護者に理解を求めていきつつ，保護者の不安・や疑問には丁寧に対応していく。 ○夏の病気や生活の仕方について知らせ，子どもが健康に過ごせるよう注意を呼び掛ける。
行　事	①②保育参観（保育参加）　①⑤給食参観　④引き渡し訓練　③七夕　②お楽しみ会（夕涼み会） ⑤誕生会　⑤終業式　④はみがき教室
食　育	○いろいろな食材に興味をもち，食べてみようとする。 ○食事をするために必要な習慣や態度を身に付ける。

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

4歳児Ⅱ期　なんでもできる! できるかな?

年長児や友達のやっていることに興味をもち、真似をしてやってみようとしますが、気持ちと技術が伴わずに、うまくできないこともたくさんあります。より工夫できるように、様々な材料や素材を準備します。

いろいろな素材に触れていく経験を重ねていくことで、試行錯誤しながら自分なりに考えてやってみようという気持ちにつながっていきます。

友達との関わりが増えてくる中で、接し方を模索したり葛藤したりし、自分の思いを言葉でうまく表現できず、トラブルになることがあります。

自分たちで解決することはまだまだ難しい場合もあるので、保育者が仲介となり、互いの思いを引き出したり、必要な言葉を補ったりしていきます。

保育者が寄り添っていくことで、安心して自分の思いを伝えようとすることができ、相手の言葉や思いにも気付けるようになっていきます。

捕まえた昆虫を見て、「この虫知っているよ!」「もてるよ!」何でも自分は知っている・できるという姿も見られます。

知っている・できるという姿を受け止め、”やってみたい”という思いを認めていきます。

自分の思いを表現し、積極的に関わっていくことで、自信をつけ、新しいことを学んでいきます。

❋ちょこっとエピソード❋

海賊ごっこを始めた子どもたち。しばらくすると、海賊船から魚釣りをしていました。「海賊が魚を釣っているの？面白いね！この魚どうしたの？」と聞くと「年長さんから持ってきたんだよ！海賊が食べるの！」と得意げに答え、我が物顔で魚釣りをしていました。「勝手に持ってきちゃったの？」「釣ってきたんだよ」「返さなくていいの？」「知らな～い」…やり取りをした後、年長児に「魚貸して」と言いに行った子どもたち。年長児も了承してくれ、海賊ごっこをより楽しんでいました。

遊び終え、年長組に魚釣りセットを返しに行きましたが、その後、自分たちも魚を作りたいといい、魚釣りごっこが始まりました。他の子がやっている遊びを、自分たちの遊びに取り入れることができた場面でしたね。

4歳児　　Ⅲ期（9月～12月）

教育･保育目標		友達との関わりを深めながら，いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
生命の保持と情緒の安定		○運動量が増し，活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し，自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。
子どもの姿		○夏休み明けで不安を示す子もいるが，張り切って登園して，保育者や友達との再会を喜ぶ姿が見られる。（短） ○年長児の遊びに興味をもち，参加したり，簡単なルールのある遊びをしたりして，戸外で体を動かして遊ぶようになる。 ○友達との関わりが多くなる中で，自己主張が盛んになり，意見がぶつかることもある。
ねらい		○友達と関わり，体を動かしていろいろな遊びを楽しむ。 ○友達と思いを出し合いながら一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
教育及び保育（予想される活動）	健康・人間関係・環境・言葉・表現	○いろいろな遊びに興味を持ち，自分でやってみようとする。 ○いろいろな遊具や用具を使い，体を動かして遊ぶ。 ○ルールのある遊びを通し，みんなで遊ぶ楽しさを味わう。 ○友達との関わりを深め，一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ○身近な自然の変化に気付き，自然物を取り入れて遊ぶ。 ○したこと，見たこと，感じたこと，考えたことを保育者や友達に話す。 ○自分の気持ちを相手に伝え，友達の話をよく聞こうとする。 ○いろいろな素材や用具を使い，自分なりに試したり工夫したりして遊ぶ。 ○音楽に合わせて体を動かしたり，感じたことを自由に表現したりして楽しむ。
環境構成（○）と援助のポイント（＊）		＊運動への取組みは，一人一人の状態に合わせ，安心してやってみようという気持ちがもてるように援助をしていく。 ○いろいろな運動遊び，ルールのある遊びを取り入れて，体を動かして遊ぶ楽しさ，心地よさ，みんなですることの面白さなどを感じられるようにする。 ○一緒に活動する喜びが味わえるように，友達との関わりがもてる場を工夫する。 ○安心していろいろな遊びに参加できるように，保育者も遊びに加わり，異年齢のしている遊びに気付かせ たり，参加したりする。 ＊身近な自然に触れながら，子どもたちが発見したことを受け止め，共感していく。 ＊子どもの伝えたいという思いを受け止め，保育者が仲立ちとなり，相手の思いや話を聞けるようにしていく。 ＊一人一人の発想や素朴な表現を共感して受け止め，安心して自分なりのイメージを表現できるようにする。
安全に関する留意点		○運動遊びでは，用具の扱い方に十分配慮し，安全に遊べるようにする。また，一つ一つの遊びの場が重ならないように工夫する。 ○遊びや活動が広がり，行動も活発になる時期なので，遊び方に十分注意していく。内容によってはルール のある事を伝え，安全に遊びが展開できるようにしていく。 ○暖房器具を使うときは，温度や湿度に気を付け，換気をこまめにしていく。また，使用時の約束事を子どもたちに知らせ，冬の安全な過ごし方が分かるようにする。
子育て支援		○行動の裏にある”葛藤する気持ち”について分かりやすく伝え，子どもの気持ちや行動を見守ったり，寄り添ったりする援助が必要なことを，機会を捉えて知らせる。 ○感染症の予防や対策について園だよりなどで知らせ，家庭でも手洗い・うがいの大切さを話してもらい，健康に過ごせるように家庭での健康管理をお願いする。
行　事		⑤始業式　⑤遠足　①運動会　⑤いもほり　③お月見　④内科健診　④歯科健診　④はみがき教室 ⑤クリスマス会　③餅つき会　⑤誕生会　⑤終業式
食　育		○食べ物と体の関係に関心をもち，食事をすることの大切さに気付く。

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

4歳児Ⅲ期　やりたい 楽しい おもしろそう でも･･･

運動会の取組などを通して、小さなできたを認められる経験を積み重ねていくことで、自信をもつようになりますが、技術や能力が伴わないことも多く、一歩踏み出すことに躊躇する姿も見られます。

保育者がモデルとなったり一緒に遊んだりして、安心できる存在となるように関わっていくことで、いろいろな遊びに興味をもち、自分から関わるようになっていきます。

子ども達と一緒に自然に触れながら、子ども達の気づきや発見に共感します。また、遊びに取り入れる姿も見られるものの、友達のようには作れなかったり、作ってみたものの周りから否定され、やらなくなったりするなど、うまく表現できない子もいます。

一人一人の発想やイメージを共感して受け止めていくことで、安心し、じっくりと取り組めるようになり、自分なりの表現ができるようになります。

鬼ごっこやボール遊びなど、ルールのある集団遊びをするようになりますが、それぞれが自分なりのルールで遊びを進めていくことで、遊びが始められなかったり、続かなかったりすることもあります。

保育者も遊びの仲間となり、一人一人が思いを出し合える雰囲気や環境をつくっていくことで、友達の話も聞こうとし、伝え合ったり、受け入れたりできるようになっていきます。

❋ちょこっとエピソード❋

「〇〇踊りたーい」年長を頼りに年少が遊戯を始めようとしています。教えてもらいたい…、一緒に踊りたい…、だけど、年長は別の遊びをしています。旗をもって準備万端の年少。それに気付いた年中のＡちゃん。「一緒に踊ろうか？」とカセットテープを巻き戻したり、衣装の帽子をかぶせてあげたり準備をしてくれました。曲が始まると「手を伸ばして～」「旗をみるよ～！うえ～」「かっこいい！」と声をかけながら張り切って踊っていました。憧れの年長さんに少し近づいた瞬間でした。

4歳児　　Ⅳ期（1月～3月）

教育･保育目標		友達との関わりを深めながら，いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
生命の保持と情緒の安定		○運動量が増し，活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し，自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。
子どもの姿		○いろいろなことに興味をもち，自分でやってみようとし，繰り返し楽しむ姿が見られる。 ○共通の話題で盛り上がったり，遊んでいるうちにイメージが膨らんだりして，友達と楽しさを共有する姿が見られる。 ○年長になることを意識し始め，張り切って生活する姿が見られる。
ねらい		○友達と思いを出し合いながら遊びを進めていく。 ○自分なりの目当てや見通しをもって生活し，いろいろな活動に進んで取り組む。 ○生活に必要な習慣や態度を身に付け，進級することへの期待をもつ。
教育及び保育（予想される活動）	健康・人間関係・環境・言葉・表現	○健康で安全な生活をするために必要なことが分かり，進んでやろうとする。 ○もうすぐ年長になることに期待をもって生活する。 ○寒さに負けず，戸外で十分に体を動かして遊ぶ。 ○友達と思いを出し合いながら，友達の気持ちに気付き，一緒に遊びを進めようとする。 ○遊びの中で自分なりの思いをもち，繰り返し楽しみ，試したり考えたりする。 ○自然事象や季節の変化に興味・関心をもち，不思議さを感じる。 ○自分の思いや考えを，言葉で相手に伝える。 ○保育者や友達の話を注意して聞き，内容をわかろうとする。 ○自分のイメージを，動きや言葉や音楽などいろいろな方法で表現して遊ぶ事を楽しむ。 ○遊びに必要なものを工夫してかいたり，つくったりして，それを使って友達と遊ぶ。
環境構成（○）と援助のポイント（＊）		＊今まで身に付けてきた生活習慣の一つ一つを確認し，できるようになったことなど一年間の成長を認めることで，自信をもって取り組めるようにする。 ＊年長児との関わりを通し，感謝の気持ちや，進級への期待がもてるようにする。 ○寒くても戸外で体を動かして遊ぶ事を促し，一人一人に目当てがもてるような活動や，共通のルールのある遊びを楽しめるように積極的に取り入れていく。 ＊友達との関わりの中で，一人一人の思いを受け止めたり，友達の思いに気付いたりできるよう仲立ちしていく。 ○子どもの気付きや考えに保育者も共感し，その思いが実現できるような場や時間を保障していく。 ○冬ならではの自然（霜・氷･雪など）に接し，興味や関心をもつと共に，季節感のある生活を楽しむことができるようにする。 ＊言葉で伝える喜びや楽しさを感じられるよう，子どもの言葉に共感しながら，子ども同士のやり取りも大切に見守っていく。 ○イメージをいろいろな方法で表現できるような材料を用意し，自分で考えたり，試したり，工夫したりして遊びを進められるようにする。 ＊友達との関わりの中で一人一人のアイディアを認めたり，取り入れたりするように援助し，互いに刺激し合い，いろいろな表現や遊び方が楽しめるようにする。
安全に関する留意点		○風邪が流行する時期なので，室内の換気を十分に行い，手洗い・うがいを促したり，見守ったりし，一人一人の体調管理に留意する。 ○暖房器具を使うときは，温度や湿度に気を付け，換気をこまめにしていく。また，使用時の約束事を子どもたちに知らせ，冬の安全な過ごし方が分かるようにする。
子育て支援		○一年間の子どもの成長を保護者と共に喜び合い，親子で進級への期待がもてるようにする。 ○感染症の予防や対策について園だよりなどで知らせ，家庭でも手洗い・うがいの大切さを話してもらい，・健康に過ごせるように家庭での健康管理をお願いする。
行事		⑤始業式　⑤誕生会　③節分　③ひな祭り　①発表会　⑤お別れ会　①卒園式　⑤修了式
食育		○気持ちよく食事をするためのマナーを身に付ける。

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

4歳児Ⅳ期　やってみようよ! いいね いいね!

制作の本を見ながら、家を作っています

友達と思いを出し合いながら一緒に遊びを進めようとします。思いを通したい気持ちがある一方で、仲良く遊びたいという思いもあり、気持ちの狭間で葛藤する姿も見られます。

友達との関わりの中で、一人一人の思いを受け止めたり、友達の思いに気付いたりできるよう仲立ちしていきながら、子ども同士のやり取りも大切に見守っていくことで、言葉で伝える喜びや楽しさを感じられるようになります。

「○○できるようになりたい」と自分なりの目当てをもって遊びや活動に取り組むようになる子、友達と一緒に活動していなくても自分なりに試していたり、見る（”まなざしをおくる”）という姿になっていたりする子など、表現の方法は様々です。

活動を強要せずに、表面的な行動やできる、できないという判断で子どものことを理解することがないよう、行動の裏にある子どもの気持ちに寄り添った援助をすることで、いろいろな表現や遊び方が楽しめるようになります。

年長児の美容室ごっこでアルバイト♪

年長児の遊びにより興味をもつようになり、自分でやってみようとしたり、参加したりするようになります。

また、1 年の活動の積み重ねから、自信をもって活動に取り組む姿が見られます。

年長児との関わりから、憧れや感謝の気持ちをもつようになります。1 年間の成長を認めるとともに、自分たちが主となる活動（お別れ会など）を取り入れる中で、子どもたちの意見や気持ちに寄り添い、それを実現できるよう援助していくことで、進級への期待や自信をもつようになります。

❋ちょこっとエピソード❋

雪の予報が出た日、雪が見たいと話していたＡちゃん。しかし、戸外は雨が降り続き…。「やっぱり雪、降らないね～」と残念がる姿がみられましたが、数時間後雪が降ってきました。テラスに出てみると、「うわ～！冷たい！」「雪だ～！」「手で触るとすぐになくなっちゃう」と大はしゃぎな子ども達。園庭は時間とともにうっすら白く積もり始めました。そんな時、「なんであっちだけ白いの？」と地面の積もり方が違うことを発見したのでした。「こっちは全然白くないのに不思議だね」「なんでだと思う？」と質問すると、子ども達はじっと見て、「わかった！こっちはお水になってるんだよ」と、どこか納得した様子でした。

雪に興味をもった子ども達が実際に雪を見て、触れて、冬ならではの自然の不思議さを感じられた一場面でした。

（7）５歳児
年間カリキュラム

≪子どもの教育及び保育目標≫

生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と
協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。

5歳児　　Ⅰ期（4月～5月）

教育・保育目標	生活や遊びの中で共通の目的をもって友達と協力しながら活動し，達成感や充実感を味わう。
生命の保持と情緒の安定	○体や病気について関心をもち，健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め，それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。
子どもの姿	○年長組になったことを喜び意欲的に活動する一方で，新しい環境への不安や緊張も見られる。 ○いろいろな活動を進んで行おうとする子，気持ちはあってもどうしたらよいか戸惑っている子， 慣れた遊びや得意な遊びに取り組むことで気持ちを安定させている子など個人差が見られる。 ○新しい友達との関わりの中で，相手の思いに気付きにくいことからトラブルになることがある。
ねらい	○進級の喜びを感じ，年長児としての自覚をもつ。 ○新しい環境や生活の仕方に慣れ，友達との遊びを楽しむ。
教育及び保育（予想される活動） 健康・人間関係・環境・言葉・表現	○園での生活の流れが分かり，身の回りのことを自分から進んでする。 ○友達と一緒に戸外で伸び伸びと体を動かして遊ぶ。 ○年下の子どもに親しみをもって関わり，年長になった喜びを味わう。 ○気の合う友達と一緒にしたい遊びに取り組んだり，友達の様子に興味をもったりする。 ○春の草花や生き物に興味をもち，触れながら遊びに取り入れていく。 ○自分の思いを友達や保育者に伝えたり，友達の思いを聞こうとしたりする。 ○様々な素材を使って，見たり感じたりしたことを楽しみながら表現する。
環境構成（○）と援助のポイント（＊）	＊新しい保育室の環境や約束事，きまりを子どもと一緒に確認し，自分でできることを見守り，年長になった実感がもてるようにしていく。 ○十分遊べるような場や時間を保障し，伸び伸びと活動できる環境を設定することで，安定した気持ちで生活ができるようにする。 ＊年下の子どもに対して，どのように接したらよいのかを一緒に考え，思いやりの気持ちを育てていく。 ○一人一人を把握し，個々の興味，遊びへの取り組みを探り，じっくりと遊び込める環境を整えていく。 ＊子どもと共に身近な春の自然や生き物に触れ，子どもたちの発見に共感し，自然物への興味・関心を高めていく。 ＊様々な機会や場で一人一人の思いや考えなど，伝えたいことを受け止め，相手の話や思いに関心をもち， 聞けるように働き掛けていく。 ＊友達との思いの食い違いから起こるいざこざなども，自分とは違う相手の思いに触れるきっかけと捉え，気付きを促す投掛けをしていく。 ○好きな遊びを友達と楽しめるように様々な素材を用意し，自由に使えるよう配置しておく。
安全に関する留意点（リスク（▽）とハザード（▼））	▼子どもたちが安全に過ごせるよう保育者間で共通理解を図り，室内環境・遊具・用具の整備・点検を十分にする・とともに，子どもたちと危険箇所について話し合ったり，約束を守る大切さを知らせたりしていく。 ▽新しいクラスになり環境が変わるので，安全な過ごし方について一緒に考え，自ら守ろうとする。
子育て支援	○一人一人の子どもが年長組になって張り切っている姿を丁寧に伝えたり，進級後の生活に不安を感じて いる保護者の気持ちを受け止めたりし，保護者との信頼関係を築いていく。 ○一年間の保育方針や活動内容などを具体的に知らせ，親子が園生活に見通しや期待をもって過ごせるようにする。
行事	⑤始業式　⑤入園式　③端午の節句　⑤誕生会　④内科健診　④歯科健診
食育	○食事に必要な基本的な習慣や態度を身に付ける。 ○栽培や収穫を通して食べ物への興味関心を広げ，食事への意欲をもつ。

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

5歳児Ⅰ期

年長になるってどういうこと？ いろんなことにチャレンジしてみよう！

進級したことや新しい環境に喜びを感じ、年下の子の手伝いを進んでしたり、いろいろな活動に意欲的に取り組んだりする姿が見られます。その反面、不安になったり緊張したりする姿も見られるので、気持ちを受け止めていくようにします。

↓

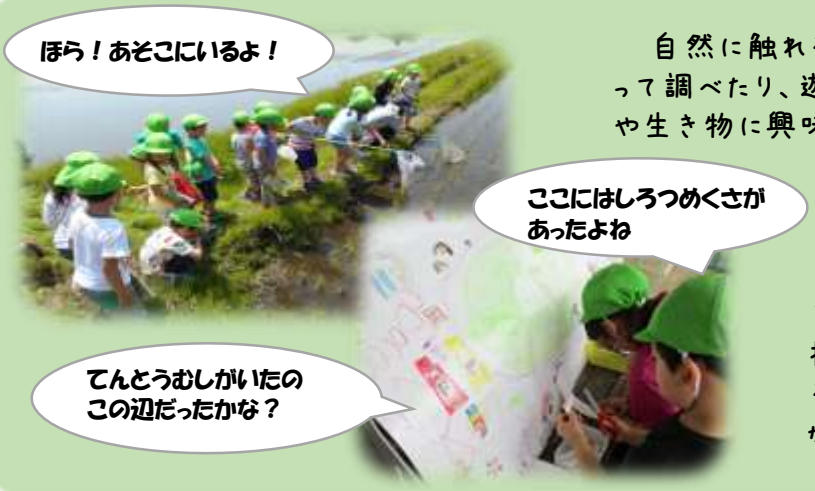
年下の子に対しての、接し方を考えたり、頼られたりする経験を通して、年長児になった喜びを味わい、徐々に安定した生活が送れるようになります。

園での生活の流れがわかり、自分たちで生活や遊びの場を整え、進めていけるようにしています。

↓

年長児の自覚が芽生え、自分たちで生活をつくり出していく意識がもてるようになります。

※時間の間隔はあくまでも目安です。活動の内容によって時間が前後することにも配慮します。



自然に触れる中で、図鑑やむしめがねを使って調べたり、遊びに取り入れたりして、草花や生き物に興味をもちます。

↓

発見したり気付いたりしたことを、園庭マップにまとめたり、捕まえた生き物を飼育したりすることで、自然への興味・関心が高まります。

気のあう友達と一緒に十分遊べるような場や時間を保障し、伸び伸びと活動できる環境を構成することで、安定した気持ちで生活できるようにしています。

↓

友達との関わりの中で自分の思いを伝えたり、様々な思いに触れ、自分とは違う相手の思いに気付いたりします。

❋ちょこっとエピソード❋

園庭で鬼ごっこをしていると、「捕まえるの一人じゃむりだよ！」と鬼の子がつぶやきました。しばらく遊びの様子を見守っていたもののつぶやきだけで終わってしまいました。そこで、保育者が「じゃあどうする？」と声をかけると、「鬼を増やしてみる？」「それいいね！」と周りの友達もその意見に賛成。保育者の言葉掛けにより、話し合う場を意図的に設け、相手の考えや思いを聞きながら、自分たちで遊びを進めていく楽しさが味わえるようにしています。

5歳児　　Ⅱ期（6月～8月）

教育･保育目標	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し，達成感や充実感を味わう。
生命の保持と情緒の安定	○体や病気について関心をもち，健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め，それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。
子どもの姿	○友達関係に少しずつ変化が見られ，関わりを広げて遊ぼうとする姿が見られる。 ○水遊びや泥遊びなど解放的でダイナミックな遊びを喜び，その中で自分の思いを伸び伸びと表現する姿が見られる。 ○思いのぶつかり合いによるトラブルが起きると，まだ友達同士では解決し切れずに，遊びが途切れたり，保育者の援助を求めたりする。
ねらい	○自分の思いを出しながら，友達と一緒に遊びを楽しむ。 ○自分なりの目的をもって，試したり，工夫したりしながら，遊ぶ楽しさを味わう。
教育及び保育（予想される活動） 健康・人間関係・環境・言葉・表現	○進んで戸外での遊びや水遊びに参加して十分に楽しむ。 ○自分から気付いて，汗の始末や水分補給･休息を適切にとり，夏を健康に過ごす。 ○やりたい遊びに進んで取り組み，友達とのやり取りを楽しんだり，周りの友達のしている遊びの内容に関心をもち，関わったりしていく。 ○砂や泥，水に触れる中で，素材の性質や特性に気付き，試したり繰り返したりして楽しむ。 ○プール遊びや水遊びなど，全身で水に親しんで遊び，思う存分解放感を味わったり，目的をもって繰り返し挑戦したりする。 ○身近な小動物の世話をする中で，その成長や生態に興味をもつ。 ○栽培物の生長に関心をもち，収穫を楽しんだり，食べる喜びを味わったりする。 ○友達と思いや考えを伝え合いながら一緒に遊ぶ。 ○イメージしたものや遊びに必要なものを，様々な材料を使って工夫してつくったり遊んだりする。
環境構成（○）と援助のポイント（＊）	＊一人一人の健康状態を十分に把握し，遊んだ後の体調の変化にも気を配っていく。 ○発見したり，試したり，工夫したりできるような素材，用具を準備し，友達と共に楽しめるような環境を整えていく。 ＊水遊びは個人差を考慮して，個々の取り組みを把握しながら，一人一人の発達や意欲にあった関わり方をしていく。 ○水遊びやプールなど，夏ならではの遊びが十分楽しめるように準備や環境設定を行う。 ○身近な小動物と触れ合う中で，自分達の興味や疑問を追及したり，継続して成長を見守ったりすることができる環境を整えていく。 ＊野菜の収穫や植物の生長に興味や関心をもって世話をし，葉の大きさ，結実，色の変化などの子どもの気付きを受け止め，期待をもって関われるようにしていく。 ＊トラブルが生じたり，遊びがスムーズに進まなくなったりしたときには，子どもの気持ちに寄り添い一緒に考えながら，相手の気持ちを感じ取ることができるように援助する。 ＊自分なりの表現が友達から受け止められ，安心感や表現する喜びを感じられるようにしていく。
安全に関する留意点（リスク（▽）とハザード（▼））	▼プール・泥遊びなど裸足で遊ぶことが多い時期なので，プールサイドの整備・園庭の石拾いなどをし，危険のないよう環境を整えておく。 ▽園庭にある石などの危険なものに気付く。 ▼プール遊びの際は，子どもと一緒に入水する人，周りで見守る人を配置する。
子育て支援	○夏の感染症や病気の治療などについて早めに家庭に知らせ，健康管理に留意してもらう。 ○友達との遊びの中で，子どもたちが学んでいること，葛藤体験の必要性などを，園だより，降園時の連絡などで伝えていくとともに，必要な事は気軽に園に相談できるような雰囲気をつくっていく。 ○夏休みには子どもなりに家事を手伝う場をつくるなど，家族の一員として生活していくことが大切な事を話していく。（短）
行事	①②保育参観（保育参加）　①⑤給食参観　④引き渡し訓練　③七夕　②お楽しみ会（夕涼み会） ⑤誕生会　⑤終業式　④はみがき教室
食育	○食事に必要な基本的な習慣や態度を身に付ける。 ○栽培や収穫を通して食べ物への興味関心を広げ，食事への意欲をもつ。

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

5歳児Ⅱ期　どうなるかな？ ためしてみよう！

友達とのつながりが広がるこの時期には、発見したり、試したり、工夫したりできるような素材、用具を準備し、友達と共に楽しめるような環境を整えていきます。

遊びのおもしろさを子ども同士が共有することで、互いに刺激を受けながら遊びがより楽しくなり、やりたい遊びに進んで取り組んでいくようになります。

夏ならではの水、砂、泥などにふれる中で、性質や特性に気づき、遊びに取り入れながら全身でダイナミックに遊べるようにしています。

自分なりの目当てをもったり、繰り返し挑戦したりする体験を重ねることで、探究心や好奇心が高まっていきます。

自分たちの栽培物として進んで世話ができる環境設定や、親しみをもてるような働きかけをしています。（当番活動、看板作りなど）

栽培物の生長を通して、葉の大きさ、結実、色の変化などに気づきます。収穫するまでには様々な過程があるということを知ることで、収穫や食べる喜びを感じられるようになります。

❋ちょこっとエピソード❋

自分で作った船に小さな廃材を乗せて浮かべていた子どもたち。「小さいのなら乗せても浮かぶね」「大きくしたらもっと乗せられるんじゃない？」「すごく大きくしたら乗れるのかな？」。子どものやってみたいという思いをくみとり、「うわー！乗れたらすごいね!!」と保育者も共感することで気持ちを高め、自分たちが乗れる船作りへ発展しました。

水が入ったり、壊れたりして沈没。「水が入らないようにするにはどうしたらいいのかな？」と保育者が投げかけると、「ふたをすればいいんじゃない？」と子ども達。失敗を繰り返しながらペットボトルの船が完成し、プールでみんなで乗って遊びました。

「乗れたー!!」「力を合わせてがんばったからできたね。」保育者が、子ども達が自ら考えるきっかけを投げかけ、気付きや発見に十分共感したことで、子ども達の自信や達成感につながりました。

5歳児　　Ⅲ期（9月～12月）

教育・保育目標	生活や遊びの中で共通の目的をもって友達と協力しながら活動し，達成感や充実感を味わう。
生命の保持と情緒の安定	○体や病気について関心をもち，健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め，それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。
子どもの姿	○夏休み明けは，喜んで登園する子どもが多いが，中には生活のリズムを崩している子どももいる。（短） ○夏に経験した遊びやできごとを話したり聞いたりすることで，友達にさらに親しみを感じる姿が見られる。 ○友達と遊ぶ中で，自分なりの目当てをもって遊ぶようになってくる子どももいる。 ○自分なりの目当てをもって挑戦し，友達から刺激を受けてやってみようとする。 ○きまりやルールの大切さは感じていても，勝ち負けなどへのこだわりから守れないことや，友達からの指摘が素直に受け入れられないでいる姿が見られる。 ○話し合いや相談の場で意見を言い合ったり，お互いの姿を認め合ったりしながら，解決に向けて考えようとする。
ねらい	○体を十分に動かし，友達と一緒に目的をもった活動に取り組むことの楽しさを味わう。 ○友達と互いに思いや考えを出し合い，力を合わせて遊びを進めようとする。
教育及び保育（予想される活動） 健康・人間関係・環境・言葉・表現	○いろいろな運動遊びに興味をもち，全身を使って遊ぶことを楽しむ。 ○友達と共通の目的をもち，自分の力を出したり，競い合ったり，やり遂げたりして，満足感や達成感を味わう。 ○遊びのルールを考えたり，必要に応じて自分達でつくり出す楽しさを味わったりしながら，友達と一緒にいろいろな遊びに取り組む。 ○身近な自然物や素材を使い，工夫しながら遊びに取り入れる。 ○小動物や虫の世話をしたり，遊んだりしてその生態を知り，大切にしようとする。 ○相手の話をよく聞き，思ったことや感じたことを言葉で伝え合う喜びを味わう。 ○感じたことやイメージしたことを，言葉や動き・音楽・造形などで自由に表現をして楽しむ。
環境構成（○）と援助のポイント（＊）	○体を動かす遊びが楽しめるような遊具や用具を用意し，励ましたり，認めたりしながら，意欲的に遊べるようにする。 ＊共通の目的に向かってみんなで取り組む楽しさ，力を合わせる大切さ，役割を果たす喜びを味わえるよう，共感したり，個々の頑張りを認めたりする。 ＊ルールのある遊びを楽しんだり，遊びをより面白くするために自分達でルールをつくったりしながら，積極的に活動できるように援助していく。 ＊身近な自然物との関わりは，子どもの気付きを大切にしながら保育者も進んで関わり，共感したり，他児に広めたりして興味・関心を高めていく。 ＊育ててきた生き物の生死ときちんと向き合って，命の尊さに気付き，いたわりの気持ちをもてるようにする。 ＊個々の子どもの気持ちや考えがお互いに言葉で伝わり合うように，必要に応じて保育者が仲立ちとなり，気付かせていく。 ○遊びに必要な材料や用具を，子どもたちが自主的に探したり，持ってきたりできる環境を整えることで，子ども自身が見通しをもって遊びを進め，思いを実現する経験を重ねられるようにする。
安全に関する留意点（リスク（▽）とハザード（▼））	▼用具の使い方・扱い方に十分配慮し，安全に遊べるように点検をしておく。また，それぞれの遊びの場が重ならないように場やスペースを工夫する。 ▼暖房器具を使うときは温度や湿度に気を付け，換気をこまめにしていく。また，使用時の約束事を子どもたちと一緒に確認し，冬の安全な過ごし方がわかるようにする。 ▼新しい道具を使用するときには，正しい扱い方を知らせ，コーナーを設けて落ち着いて取り組めるように配慮する。 ▽危険を伴う道具があることを理解し，注意して扱うことができる。
子育て支援	○子どもの活動に対する取り組み方や，成長している姿を保護者と共に大切に見守り，共に喜び合えるようにする。 ○感染症の予防や対策について園だよりなどで知らせ，家庭でも手洗い・うがいの大切さを話してもらい，健康に過ごせるように家庭での健康管理をお願いする。 ○就学に向けて生活習慣などを園と家庭で見直していく機会をつくり，家庭でも意識を高められるように働き掛ける。
行事	⑤始業式　⑤遠足　①運動会　⑤いもほり　③お月見　④内科健診　④歯科健診　④はみがき教室 ⑤クリスマス会　③餅つき会　⑤誕生会
食育	○栽培や収穫を通して食べ物への興味関心を広げ，食事への意欲をもつ。 ○体と食べ物の関係に関心をもち，バランスよく食べる。

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

５歳児Ⅲ期　みんなで力をあわせたら こんなこともできるんだ!

運動会などの行事や遊びを通して、自分なりのめあてをもって挑戦する姿を認めたり、一人一人の良さや考えが十分に発揮される機会を作ったりしていきます。

お互いの姿に刺激を受け、認めあいながら自分たちで活動を進めようとする意欲が高まっていきます。活動を通してやり遂げる喜びや達成感を味わうことができ、自信につながっていきます。

散歩に出かけたり、戸外遊びでしたりする中で、直接自然に触れ、観察したり、不思議に思ったりした子どもの気づきや、発見を大切にしながら保育者も関わり、共感したり、他児に広めたりして興味・関心を高めています。

身近な自然物や素材を遊びに取り入れ、自分のイメージを実現するために、試したり工夫したりしながら、表現する意欲や想像力が育ちます。

遊びの実現に向けて友達と話し合う機会を作り、自分の意見を友達に伝えたり、友達の意見を聞いて活動に取り入れることができるようにしています。

自分たちの目的を達成するためには、自分の思いばかりではなく友達の思いを受け入れ、調整することが大切であることを感じ、みんなで取り組む楽しさや力を合わせる大切さ、役割を果たす喜びが味わえるようになります。

❀ちょこっとエピソード❀

園で飼育しているエンゼルフィッシュが動かないことに気付いた子ども達。「どうしたんだろうね？」と保育者が投げかけると、子どもたちは「水槽にぶつかって怪我したんだよ。」「他の魚とケンカしたんじゃない？」「死んじゃったの？」とそれぞれの思いを口にしていました。

≪触っても動かない魚を見て、死んでいることに気付いた子どもたち≫

保育者「死んじゃったのかなぁ。どうしようか？」子ども「海に返してあげたら生き返るんじゃない？」「死んだら土に埋めるんだよ。」

≪一度水の中に入れてみると、全く動かない様子を見て…≫

子ども「やっぱり死んじゃってるね」「お墓つくろうよ」保育者「そっか死んじゃったんだね。お墓どうつくる？」子ども「名前書こうよ。」

保育者が、木のプレートとペン、埋めるためのシャベルをさりげなく用意すると、子ども達は土に埋めてお墓を作り、手を合わせていました。翌日、お墓を見るとお花が添えられていました。

子どもたちなりに「なぜ？どうして」と不思議に思ったり、「かわいそう」と思いやりの気持ちをもったり、生命の尊さや別れの悲しさ、慈しむ気持ちなどを学ぶ機会となりました。命の尊さを知り、命のある物を大切にしようとする気持ちが育つように自然と関われるようにしたいですね。

5歳児　　Ⅳ期（1月～3月）

教育･保育目標	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し，達成感や充実感を味わう。
生命の保持と情緒の安定	○体や病気について関心をもち，健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め，それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。
子どもの姿	○仲間関係が深まり，これまでの経験をもとに自分たちの思いを出し合って遊びを進めていく。 ○友達とのトラブルの中で，自分たちで問題を解決しようとする。 ○一年生になることを期待して話をしたり，楽しみに待ったりする様子が見られる。
ねらい	○友達と共通の目的をもって遊びや生活を進め，やり遂げる喜びと充実感を味わう。 ○就学への期待をもち，自信をもって生活する。
教育及び保育（予想される活動）　健康・人間関係・環境・言葉・表現	○健康な生活に必要な習慣の大切さが分かり，身の回りのことを自分から進んでするなど見通しをもって生活する。 ○寒さに負けず，思いきり体を動かして集団遊びや運動遊びを楽しむ。 ○いろいろなグループの仲間やクラスの友達と共通の目的に向かって考えを出し合いながら遊びを進め，一緒にやり遂げた喜びを味わう。 ○友達のよさや頑張っていることに気付き，互いに認め合う。 ○文字や数を使った遊びを繰り返し楽しみ，自分達の遊びや生活に取り入れていく。 ○冬の自然現象に興味をもち，考えたり試したりすると共に，冬から春への季節の変化に気付く。 ○一年生になることへの憧れや期待をもって生活し，集団の中でも友達や保育者の話を注意して聞き，自分の思いや考えを話そうとする。 ○友達とイメージを出し合い，感じたこと，想像したことをいろいろな形で工夫して表現する。
環境構成（○）と援助のポイント（＊）	＊生活習慣の自立について，一人一人の様子を確認し必要に応じて声を掛けながら，自信をもって行うことができるようにしていく。 ＊友達と共に遊びを進めていく様子を見守ったり，励ましたり，共感したりしながら，互いのよさを認め合うことのできる雰囲気づくりをする。 ○冬の自然現象との出会いを逃さず捉えて遊びに取り入れるなど，楽しみながら知的好奇心が育まれるよう関わっていく。 ○正月遊びのカルタやトランプなどを用意し，一緒に楽しみながら，文字・数量などに関心がもてるようにしていく。 ○小学校との交流の機会を作り，入学に対しての期待や憧れの気持ちをもてるようにする。 ○経験したことや自分の考えをクラスの友達の前で分かるように話し，このような経験を重ねて自信をもて るようにするとともに，友達の話も静かに聞く場を日常的につくっていく。 ＊今まで経験したことが生かされるように見守り，遊びの工夫を認めたり，ときにはアイディアを一緒に考えたりして， 内容を充実させて楽しかったという満足感が味わえるようにする。
安全に関する留意点（リスク（▽）とハザード（▼））	▼風邪が流行する時期なので，手洗い・うがいの励行，室内の換気を十分にし，一人一人の体調管理に留意する。 ▽手洗い・うがいの大切さが分かり，自ら行う。 ▽暖房器具がついている時の約束や室内の過ごし方が分かり，自ら守ろうとする。 ▼就学に向け，絵本や紙芝居などを通して，正しい交通ルールの知識が身に付くようにする。 ▽正しい交通ルールが分かり，守って行動する。
子育て支援	○園生活を振り返りながら，子どもの成長の姿を具体的に知らせ，保護者と共に子ども達の成長を喜び合う。 ○感染症の予防や対策について園だよりなどで知らせ，家庭でも手洗い・うがいの大切さを話してもらい，健康に過ごせるように家庭での健康管理をお願いする。 ○生活面でも入学への準備を親子で進められるよう，早寝・早起きなどの生活リズムを整えることや，通学路の交通ルールを一緒に確認することなど，具体的な取り組みを家庭にも勧め，伝えていく。
行　事	⑤始業式　⑤誕生会　③節分　③ひな祭り　①発表会　⑤お別れ会　①卒園式　⑤修了式
食　育	○健康に必要な習慣を身に付け，食事の大切さを知る。

※行事のねらい・・・①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　②親子のふれあいを促す役割　③伝統文化を知らせる役割
④健康と安全を守る役割　⑤保育を厚くする役割

５歳児Ⅳ期　自分たちで考えて 話し合い とことん遊ぼう!

友達と共通の目的に向かって今までの経験をもとに、考えを出し合いながら自分たちで遊びを進めていく姿を見守ったり、時には仲間となったりして、十分に認めていきます。

時にはぶつかりあいながらも、互いの良さに気づき、認め合い、自分の力を発揮して遊びや生活をすすめ、やり遂げることで喜びを味わい、さらなる自信につながっていきます。

ドッジボールの対戦表作ろうよ！

遊びや生活の中で、文字や数量、図形などに関心をもてるような環境を用意し、繰り返し親しむ体験を重ねていくようにします。

遊びや生活の中で、その役割に気付いたり、使ってみたりすることで、興味や関心が高まり、自分達で予定表を見たり、時計を利用したりしながら、見通しをもっていろいろな活動を進められるようになります。

そろそろ片付けよっか

冬の自然現象に触れる機会を逃さず捉えて、好奇心や探究心をもって、見たり触れたりする姿を見守るようにしています。

冬の自然現象に興味をもち、考えたり試したりすることで身近な自然の美しさや不思議さに触れて感動する体験を重ねながら自然への興味関心が高まります。

❋ちょこっとエピソード❋

小学校から交流会の招待状が届きました。「お兄さんお姉さんにあえるね」「小学校ってどんなところかな？」と、ワクワクしていた子どもたち。交流会では一年生の発表を見た後、学校内を案内してもらいました。「お部屋がいっぱいあるね」「ここは何するところかな？」とはじめてみたものに興味心身。一年生に「ここは〇〇だよ」と優しく教えてもらい、「そうなんだ」と、目を輝かせていました。見学後はボウリングやけんだまづくりなどで一緒に遊び、楽しい時間を過ごしました。交流の機会を作ることで、「小学校って楽しいね」「お兄さんお姉さんみたいになりたいな」と一年生になることへの憧れや期待をもったようです。

小学校に期待が膨らむような遊びに発展する工夫をしていきます。

（８）アプローチ
カリキュラム

５歳児の年間カリキュラムのうちⅢ期及びⅣ期を基とした小学校への接続期に特化したカリキュラムです。育みたい資質・能力の３つの柱と幼児期の終わりまでに育って欲しい１０の姿を捉えた活動を例示しています。

東金市幼稚園・保育所・認定こども園共通アプローチカリキュラム

	アプローチカリキュラム ９　月　～　３　月（５歳児）	予想される子どもの姿 4月～（１年生）
ねらい	・体を十分に動かし、友達と一緒に目的をもった活動に取り組むことの楽しさを味わう。 ・友達と互いに思いや考えを出し合い、力を合わせて遊びを進めようとする。 ・友達と共通の目的をもって遊びや生活を進め、やり遂げる喜びと充実感を味わう。 ・就学への期待をもち、自信をもって生活する。	・新しい環境に慣れ親しむ。 ・学校生活に必要な習慣を身に付ける。 （掃除の仕方、給食の配膳等）
育みたい資質・能力 知識及び技能の基礎 「気付く」「できる」「分かる」力	 「おはよう！カナヘビさん」「お水をあげるよ」友達と一緒に毎日お世話をしながら、図鑑を見て調べます。 週の予定、毎日の予定を見て、見通しを持って生活をします。先生に言われなくても、台布巾の準備も消毒も自分達で行っています。 縄跳びチャンピオン！「すごいね！おめでとう！」友達の出来た事を共に喜び合い認めることができました。 寒い朝、氷をみつけた子どもたち、「もっと大きな氷が作れるかな？」大きな穴を掘って、氷作りに挑戦。「やった！大成功！」冬の自然に気づいた子どもたちです。 	・先生や友達に元気よく挨拶をする。 ・クラスの友達や上級生との交流を楽しむ。 ・学校の中の施設について知る。（学校探検） ・学校の中にはどの様な人がいるのかを知る。 ・準備や片づけ等、身の回りのことは、自分で行う。 ・その場に応じた言葉の使い方ができる。
思考力・判断力・表現力等の基礎 「工夫する」「試す」「考える」「表現する」力	 野菜を細かく切って色水作りをしました。「きゅうりとキャベツはこんなに色が違うんだ！」身近な素材を工夫して遊びに取り入れています。 縄跳び何回跳べるかな？自分たちで、何回跳べたか記録することで、意欲も高まります。 かるたは、読み手も自分たちでやっています！何枚とれたかな？ 「みんな聞いて」友達の話を聞いたり、自分の思ったことを言ったり、言葉で伝え合う喜びを味わいながらお店屋さんごっこの話し合いをしていきます。 先生：「ここでまわってみる？」子：「これ、かっこいいね！」音楽に合わせて自由に表現して楽しんでいます。 先生：「今日の出来事で楽しかったことは何ですか？」子：「はい！僕は〇〇が楽しかったです」みんなの前で、しっかりと言葉で伝えることができました。周りの友達は、聞くことも上手になりました。 	・学校生活に必要なきまりやマナーを考え、守ろうとする。 ・学校であったことをお家の人に伝える。 ・先生や友達の話をじっくり聞こうとする。 ・生き物とのかかわり方を考え、行動する。 ・自分の思ったことを適切に表現する。 （わからないときや困ったときには、言葉で伝える。）
学びに向かう力・人間性等 「意欲をもつ」「頑張る」「粘り強く取り組む」力	 海賊ごっこで遊んでいた子どもたち、「海賊船つくりたいなぁ」「牛乳パックで作ろうよ」友達とアイディアを出し合い作り上げ、いざ出航！ お祭りごっこをしよう！「こっちはどうする？」友達とイメージを出し合い、感じたこと想像したことを表現しながら遊びを進めていきます。 「白組がんばるぞ～！！エイエイオー」「赤組負けるな！！エイエイオー」力を合わせ、競い合って綱引きをしました。 上手くできなかった雲梯、出来るようになったころには、手にまめが。たくさん頑張った勲章です！ チーム分けも自分たちで決めて、集団遊び（ドッヂボール）をすれば、いつの間にか、体はポカポカ。寒い中でも体を動かして遊びます。	・先生や友達、上級生と楽しく遊ぶ。 ・学校生活・学習を楽しみにし通学する。 ・時間や約束を守ることの大切さを知り行動する。 ・生き物や草花に関心をもち、触れ合うことや、世話をすることを楽しむ。 ・通学路の様子や安全を守ってくれている人がいることを知り、安全な登下校をしようとする。
家庭との連携	・生活習慣を見直し、早寝早起き朝ごはんを家庭と一緒に習慣としていく。 ・行事に参加してもらうことで成長を共に喜び、就学へ向けて連携をとっていく。 ・おたより、ドキュメンテーション等を通して、園での様子を知らせていく。 ・就学に向けての保護者の不安に寄り添い共に考えていく。	
小学校との連携	・**連携会議等**（保幼小職員が集まり、情報を共有することで小学校のスタートがスムーズにいくようにする。） ・**交流会**（１年生と年長児で交流を図ることで、小学校がどんなところなんだろうという不安を少しでもなくなるようにする。） ・**保幼小研修会**（一同に会し、同じ研修を受け共通の認識を持つことで、スムーズな接続を図る。また、職員同士の交流の場とする。） ・**小学校の運動会に参加：招待児レース**（小学校へ行き、行事に参加することで学校への不安をなくし期待が持てるようにする。） ・**クラス編成会議**（入学に向けクラス編成を行い、小学校へ子どもの情報提供をすることで、学校生活が安定して送れるようにする。） ・**指導要録**（保育要録）の提出（指導要録等に子どもの成長過程を記入し提出することで、小学校での支援や指導がスムーズに行えるようにする。）	

幼児期の終わりまでに育って欲しい姿「10の姿」

健康な心と体
●保育者や友達と十分体を動かして楽しめるよう遊具などの環境を整備する。＊生活の中で次は何を何のためにするかを自ら考えて行動できるようにする。

自立心
●「頑張ったり」「我慢したり」「自分がすごいと思えたり」する経験ができる機会をたくさんつくっていく。

協同性
●友達と一緒にやることで、自分一人でやるよりも、もっと大きくて素敵なことを実現できるという体験ができる環境を作っていく。

道徳性・規範意識の芽生え
●ルールを理解したり、その必要性に気付いたり、という道徳性や規範意識、自分の気持ちを調整する力や人への思いやりの気持ちを育てていく。

社会生活との関わり
●地域の方とのふれあいの場を設けたり、公共の場の利用の仕方を知らせたりしていく。

思考力の芽生え
●友達や保育者との対話を通して新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わえるようにする。

自然との関わり・生命尊重
●様々な自然との出会いを工夫し、そこで遊ぶことを通して自然に親しみ、大切にする心を育てていく。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
●遊びや生活の中で、数量や図形、文字などに出会い、その必要性が感じられる体験を重ねられるようにしていく。

言葉による伝え合い
●大人の言葉や物語から言葉の刺激を与えられるようにし、遊びや生活の中で言葉を使ってのやり取りの場面を多くもつようにする。

豊かな感性と表現
●作品の最終的な形ではなく、表現しているときの子どもの喜びや工夫に気付き、しっかりと受け止め他の子にも伝えることで表現する楽しさを味わえるようにする。

予想される、小学校教諭の環境構成（〇）と配慮事項（＊）

＊子どもの不安を受け止め、新しい生活に慣れていけるよう一人一人の様子を注視し、接するようにする。
〇学校生活に必要なきまりやマナーを可視化することでわかりやすくする。
＊話しやすい雰囲気作りをし、信頼関係を築いていく。
〇上級生との交流をもつことで安心して学校生活がおくれるようにする。
〇生き物の世話をすることで学校に親しみがもてるようにする。

※活動内容は事例であり、園や年度により異なります。　※「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿【１０の姿】」は到達目標ではなく「このような方向に向けて指導を進めましょう」という方向性です。
※５歳児の８月以前の活動については「共通カリキュラム」の「年間指導計画」を参照してください。　※「予想される子どもの姿」は、就学前児童施設側から予想する姿であり、東金市の共通の「スタートカリキュラム」ではありません。

５．（平成 27・28 年度）東金市カリキュラム策定会議委員名簿

	所　属	職　名	氏　名	備　　考
会　長	城西幼稚園	園　長	市原　純子	平成 27 年４月１４日～ 平成 28 年３月 31 日
	嶺南幼稚園	園　長	櫻田　美智子	平成２８年４月１日～
副会長	第４保育所	副所長	大泉　由美子	
委　員	第１保育所	副所長	小川　まゆみ	
	第２保育所	副所長	今井　照子	
	第５保育所	副所長	猪澤　真理子	
	正気幼稚園	教　頭	小川　久美	
	公平幼稚園	教　頭	市原　綾子	平成 28 年４月１日～
	源幼稚園	教　頭	野老　知子	
	嶺南幼稚園	教　頭	佐藤　真由美	平成 27 年４月 14 日～ 平成 28 年３月 31 日

アドバイザー	千葉明徳短期大学保育創造学科　石井章仁准教授 （現：大妻女子大学家政学部児童学科准教授）

6．（平成 29 年度）東金市カリキュラム見直し検討会議委員名簿

	所　　属	職　名	氏　名	備　考
会　長	嶺南幼稚園	園　長	櫻田　美智子	
副会長	第４保育所	所　長	大泉　由美子	
委　員	第５保育所	主任保育士	横山　幸代	0･1 歳児代表
	第４保育所	主任保育士	山崎　ミユキ	２歳児代表
	第１保育所	主任保育士	松島　直美	３歳児代表
	大和幼稚園	主任教諭	吉村　万里子	３歳児代表
	第２保育所	主任保育士	今関　珠希	４歳児代表
	嶺南幼稚園	主任教諭	羽田　貴子	４歳児代表
	第２保育所	主任保育士	渡邊　幸代	５歳児代表
	正気幼稚園	主任教諭	市原　英明	５歳児代表
アドバイザー	千葉明徳短期大学保育創造学科　石井章仁教授 （現：大妻女子大学家政学部児童学科准教授）			

年齢別分科会委員名簿

年　齢	所　属	職・氏名	所　属	職・氏名
５歳児	正気幼稚園	主任教諭　市原　英明	第１保育所	主任保育士　西村　洋子
	城西幼稚園	主任教諭　千葉　めぐみ	第２保育所	主任保育士　渡邊　幸代
	丘山幼稚園	教諭　林　和代	第３保育所	主任保育士　梶　綾子
４歳児	嶺南幼稚園	主任教諭　羽田　貴子	第１保育所	保育士　合田　真夕
	源幼稚園	主任教諭　櫻井　ひとみ	第２保育所	主任保育士　今関　珠希
	正気幼稚園	教諭　松井　恵美	第５保育所	保育士　山口　優
３歳児	大和幼稚園	主任教諭　吉村　万里子	第１保育所	主任保育士　松島　直美
	東金幼稚園	教諭　星野　志帆	第３保育所	主任保育士　向後　かおり
	公平幼稚園	教諭　鈴木　静香	第４保育所	保育士　鬼島　絵美子
２歳児	第５保育所	副所長　猪澤　真理子	第１保育所	主任保育士　角川　恵美子
	第２保育所	主任保育士　花澤　由紀	第４保育所	主任保育士　山崎　ミユキ
0・1 歳児	第２保育所	副所長　今井　照子	第１保育所	主任保育士　西谷　万貴子
	第３保育所	主任保育士　小川　美鈴	第５保育所	主任保育士　横山　幸代

7.（平成 30 年度）東金市カリキュラム事例検討会議委員名簿

	所　属	職　名	氏　名	備　考
会　長	第４保育所	所　長	大泉　由美子	
副会長	正気幼稚園	園　長	栗原　和代	
委　員	第３保育所	主任保育士	小川　美鈴	0 歳児代表
	第１保育所	主任保育士	松島　直美	1 歳児代表
	第５保育所	主任保育士	横山　幸代	2 歳児代表
	第１保育所	主任保育士	西村　洋子	3 歳児代表
	城西幼稚園	主任保育士	千葉　めぐみ	3 歳児代表
	第３保育所	保育士	渡邉　泰子	4 歳児代表
	正気幼稚園	教　諭	松井　恵美	4 歳児代表
	第４保育所	主任保育士	山崎　ミユキ	5 歳児代表
	大和幼稚園	主任教諭	吉村　万里子	5 歳児代表
アドバイザー		千葉明徳短期大学保育創造学科　石井章仁教授 （現：大妻女子大学家政学部児童学科准教授）		

年齢別分科会委員名簿

年　齢	所　属	職・氏名	所　属	職・氏名
0 歳児	第２保育所	副所長　渡邉　幸代	第３保育所	主任保育士　小川　美鈴
	第１保育所	保育士　玉井　里穂	第４保育所	主任保育士　髙吉　直子
1 歳児	第１保育所	副所長　猪澤　真理子	第１保育所	主任保育士　松島　直美
	第２保育所	保育士　藤代　紗矢	第４保育所	保育士　小出　里美
2 歳児	第４保育所	副所長　今井　尚美	第５保育所	主任保育士　横山　幸代
	第２保育所	保育士　谷　みずほ	第３保育所	保育士　鬼島　絵美子
3 歳児	城西幼稚園	主任教諭　千葉めぐみ	第１保育所	主任保育士　西村　洋子
	公平幼稚園	教諭　宮﨑　貴子	第２保育所	保育士　鈴木　菜未
	丘山幼稚園	教諭　渡邉えりか	第５保育所	保育士　小川　侑希
	アドバイザー		嶺南幼稚園	教頭　羽田　貴子
4 歳児	正気幼稚園	教諭　松井　恵美	第２保育所	保育士　崎山　美穂
	嶺南幼稚園	教諭　吉原　梨紗	第３保育所	保育士　渡邉　泰子
	源　幼稚園	教諭　髙橋　美樹	第４保育所	保育士　土屋　晴代
	アドバイザー		正気幼稚園	教頭　市原　英明
5 歳児	大和幼稚園	主任教諭　吉村万里子	第１保育所	保育士　合田　真夕
	公平幼稚園	教諭　鈴木　静香	第４保育所	主任保育士　山崎　ミユキ
	東金幼稚園	教諭　石井　美帆	第５保育所	保育士　山中　奈津美

８．（令和３年度）東金市カリキュラム策定会議委員名簿

（アプローチカリキュラム検討）

	所　属	職　名	氏　名
会　長	第２保育所	所　長	大泉　由美子
副会長	嶺南幼稚園	園　長	野老　知子
委　員	正気幼稚園	教　頭	佐瀬　かず枝
	城西幼稚園	教　頭	千葉　めぐみ
	第４保育所	副所長	渡邊　幸代
	第１保育所	副所長	西村　洋子
	福岡こども園	園　長	岡本　多美子

東金市立幼稚園・保育所・認定こども園共通カリキュラム

平成 29 年３月　初版

平成 31 年３月　改定（事例集の追加）

令和３年３月　　改訂（認定こども園の字句の追加）

令和４年３月　　改定（アプローチカリキュラムの追加）

発　行　　東金市

編　集　　東金市　市民福祉部　こども課